

「野の花」

第一幕

一九九五年のドイツ。リーザおばあさんの家の居間。ドイツ家屋の壁や暖炉。ソファ―セットと椅子。下手奥に玄関へと続くドア。上手奥はキッチンへ続く。客席側に窓があるという設定で、部屋には午後の陽光が斜めに差し込んでいる。静かな音楽「プロローグ」の演奏で客電が落ち、暗転中でおばあさんが揺り椅子に座って午睡。おばあさんが眠る姿のみ照明に浮かぶ。

下手奥から、年輩の婦人エヴァ（イーダの母親）と、ヘルガ（エヴァの妹、イーダの叔母）、ギムナジウム（ドイツの中学校）の制服を着たイーダが登場。舞台上の照明がついて芝居が始まる。

休日の午後四時頃。

【SE】ドアが「ガチャン！」と開く音。音楽終了。

エヴァ

おばあちゃん！

ヘルガ

来たわよ！

おばあさん

（目覚める）ああ！

エヴァ

イーダも一緒よ！

おばあさん

イーダ！

ヘルガ

元気だった？

エヴァ

おもてのベルを鳴らしたけど応答がないんではいつて来ちゃった。

おばあさん

いやねえ。すっかり寝てしまつて。お前たちの夢を見てたわ。子供の頃

おばあさん

のお前たちの夢を。（エヴァと抱き合つて）しばらく。（ヘルガと抱き

おばあさん

合つて）嬉しいわ・・・イーダ。

イーダ

こんにちは。

おばあさん

（イーダと抱き合つて）遠くまでよく来たわ。何年ぶり？

エヴァ

おばあちゃんと会うのは4年ぶり。もう中学生なのよ。

おばあさん

こないだうちに来た時は、確かこのくらい。

エヴァ

今、全寮制の学校にはいつてるんで、久々に家に帰つて来たら、えらく

おばあさん

背が伸びてて。ここまでは私たちが育てたけど、こっからは学校が育

おばあさん

ててくれた。

ヘルガ

この（顔の）ブツブツもね。ファッフアッフアッフアツ（笑う）。

エヴァ

性教育の授業受けたら、出てきたのよ。

おばあさん

ずいぶん早かつたわね。暗くなつて到着と聞いてたから、料理をこしら

ヘルガ

エヴァ

ヘルガ

おばあさん

エヴァ

ヘルガ

おばあさん

エヴァ

おばあさん

エヴァ

えようと。

思ったより早く出たのよ。料理は私たちがつくるわ。ほら！ 黒い森のヴィルト（ここでは野鳥）！ すいでしょ！

この人の旦那が（撃った）。それとシユナップス（果物の蒸留酒）と。野菜はある？

じゃがいもとほうれん草。それからザワークラウトと酢漬けチーズが冷蔵庫に。お前たちのために作つといたの。

予想どおり。

もちろん手作りのソーセージは。

ありますとも。

台所借りるわ。

ニンニクは窓の高いところに。

イーダ、お前はここでおばあちゃんのチェスの相手を。（おばあさんに）分かってますって。20年、ここで生きて来たのよ。

エヴァ、ヘルガ、上手に退場。リーザおばあさんとイーダが残る。

イーダ

おばあさん

イーダ

おばあさん

イーダ

おばあさん

チェスをなさいます？

ええ。（暖炉の上からチェス盤を取り、テーブルの上に置く。）

（窓辺にたたずみ）きれいな野の花が咲いてる。きれい。

（近くへ寄り）シユバルムシユタットの森。赤ずきんちゃんのふるさとも。学校はどう、イーダ？

（口ごもる）勉強のこと？ 友達のこと？

今の中学生のことは何も分からないわ。戦前の私たちの頃と、戦争から50年もたった今では、何もかも変わってしまったでしょう。クラスは、楽しい？

イーダ

おばあさん

イーダ

（否定）ううん。・・・私はいじめられっ子だから、友達はいないの。まあ。

夏になるまでに学校を辞めたいと思ってるけど、ママも叔母さんも反対。進学校だから。

おばあさん

イーダ

おばあさん

イーダ

おばあさん

イーダ

・・・でも、夏になるまでに決めないといけないのかしら？
夏になると、水泳があつて、水着になるでしょ？
ええ。

私の足に、アザがあるの、御存知ですよ？

赤ん坊の時に見たわ。（指を丸くして）こんな小さいのでしょ？

今は大きいの。

イーダは制服のスカートをまくって、ふともものアザを見せる。

イーダ

おばあさん

子供の頃から、からかわれてきたから、夏が来るのがいやなの。

ヘンなこと言ってくるヤツがいたら、そいつの口にソーセージでも突っ

イーダ
おばあさん

込んでやったらいい。
・・・そんなに強くないわ。
(戸棚に目をやり) お前に友達をあげよう。世の中で誰より強くて、頼りになる友達。私をこの年になるまで見守り続けてくれた親友。ルイーゼよ。

おばあさんは、戸棚から古ぼけた人形を出し、イーダに渡す。

イーダ

(人形を手に取り) ルイーゼ・・・。

音楽「ルイーゼの人形」が流れる。

おばあさん

私も、いじめられっ子だった。お前ぐらいの年。小児麻痺で、生まれつき足が悪くて、右足を引きずって歩くのが不格好だね。運動も出来なくて、そんな自分が嫌だった。だから、人見知りの、臆病な女の子になった。ルイーゼは、そんな私を助けてくれた。太陽のような生命力で私を照らして、力を与えてくれたの。

イーダ
おばあさん

(人形を見て) ルイーゼが？
・・・ちよつと待つて。

おばあさんは、本棚から古いアルバムを取り出し、上手前の椅子に座ってアルバムを開く。そばに寄るイーダ。

おばあさん
イーダ

ああ。見て。これがその頃の私。
可愛い。

照明変化。少し暗くなる。下手奥から若い頃のリーザ登場。

おばあさん

「かわいそうなリーザ」親戚の人からそう呼ばれていたわ。日の当たらないところが好きで、外へ出かけるのがいやだった。家の窓から外を覗くと、庭の木の枝に小鳥やリスがやってくるのがなぐさめだね。それに名前をつけて、友達のようにしていたの。

イーダ
おばあさん

・・・兄弟は？
兄が一人。

イーダの兄のハンス(若い頃)、上手奥から登場。

おばあさん

ハンス。優しい兄だった。私を見つけては、声をかけてくれて。兄となら外出することも平気だった。若いうちに死んでしまったけれど、一枚だけいい写真があるわ。ほら、私と一緒に。

下手奥からリーザの父オットーが登場して二人に声をかける。

オットー

振り向いてごらん。

振り向く兄と妹。父はカメラを手にシャッターを切る。【SE】シ
ャッター音と旧式のフラッシュが際立つ。音楽終了。

おばあさん

父が撮ってくれたの。私の中学の入学式の日。

オットー

ああ・・・もう一枚。今度は笑顔で。

おばあさん

急に撮られたって顔してるでしょ？

母のパウラ登場。

パウラ

あなた。ポラックさんと娘さんが。

オットー

おお、ちょうどいい。お前も一緒に。

パウラ

ええ？

オットー

そこへ並んで。記念写真だ。

パウラ

いやですよ。そんな写真なんか。

オットー

いいから並べ。

パウラ

ええ？

ハンス

母さん、真ん中へ。

パウラ

いいよ、はじで。

ハンス

(母を掴んで) 真ん中へおいでよ。

パウラ

ええ？(真ん中へ)

オットー

さ、写すぞ。もうちよつとこう、つまつて。

パウラ

早くしてください。ポラックさんが。

オットー

分かってるって。いいか、写すぞ。

ハンス

ハイ。

間。

オットー

リーザ、笑つて。お前の入学式だ。葬式じゃない。

ハンス

ほら、ラッヘン(笑う)！

アルベルト・ポラック氏(ルイーゼの父)が下手奥に登場。

アルベルト

オットー！

オットー

アルベルト！ やあ、ハハハハハ！(親父二人、握手)

アルベルト

やあ、ハンス！ リーザ、入学おめでとう！ 今日はクルマで学校へ行
くんだよ。

オットー

ポラックさんがクルマを出してくれた。

パウラ
オットー
アルベルト
パウラ
アルベルト
パウラ
オットー

すみませんねえ。隣（の部屋）にお茶の用意がしてありますから。
おお、お茶を飲んで。まだ時間はある？
クルマなら20分で到着だから。
少し休んでください。運転は疲れますから。
なあに、20分ですよ、奥さん。乗ったらすぐだ。
リーザ。教科書を忘れないように鞆に入れなさい。
晴れてよかった。こんな日に雨だとかなわん。

リーザを残して大人たちはにぎやかに下手奥に退場。リーザは部屋
の中で静かに入学の準備を進める。

おばあさん

結局写真は撮りそこねて、この一枚だけが残った。私はもう、その頃から家族のお荷物だと感じていたわ。もちろん、誰もそんなことは言わなかったけれど。父も母も兄も、本当に優しい人だったから。父は大学で文学を教えていたけれど、その当時はまだ教授になっていなかった。母は父が助手の頃に下宿していたアパートの娘で、たまっていた部屋代を催促に来て知り合ったんだそうよ。

イーダ

（笑う）リーゼは？

おばあさん

その時、初めて会ったの。

下手奥にリーゼが立つ。少し遅れて気づくリーザ。

リーゼ

空を見た？

リーザ

え？

リーゼ

東の空。いやな雲が出てる。「祖国」って書いてあるみたい。見た？

リーザ

いいえ。

リーゼ

ツライ時代が始まったらしいわ。リーゼよ。あなたと同じ学校へ入学ですって。

握手をしようと手を出すリーゼ。リーザは足を引きずりながら近づく。リーゼがそのことに気づく。

リーザ

リーザよ。（握手）

リーゼ

よろしく。

リーザ

はじめまして。ポラックさんの娘さんね。

リーゼ

ええ。親父同士は仲いいらしいわ。

リーザ

父の盲腸を取ってくれたそうよ。えらいお医者様ですって。私も、ポラックさんの病院で生まれたの。どうして、小学校の時は一度も会わなかったの？

リーゼ

ずっと入院してたから。

リーザ

どこが悪いの？

ルイーゼ

血小板が少ないんですって。退院したのはよかったけど、学校へ入学するなんて、また入院する気分。

下手奥にリーザの母が登場。

パウラ

リーザ。教科書は鞆に入れたの？ 出発しますよ。

リーザ、ルイーゼ、パウラ、下手奥に退場。音楽。

おばあさん

私とおんなじ気持ちの人に出会えた。それで私は救われたの。

音楽「ルイーゼの思い出」スタート。

おばあさん

何かがあっても、相談できる友達がいるってことはどんなに気が楽か。ルイーゼ・キンスキー・ポラック。一生忘れられない友達だったわ。学校に入学した私にとつて、たった一人の頼りになる助っ人だった。入学してみつき（三ヶ月）もたたないうちに、彼女は学校のスターになったのよ。

イーダ

どうして？

おばあさん

（生き生きとして）問題児だったの！ 学校創立以来のお転婆だった。厳格な教育で知られる学校で、百年に一人生まれるかどうかの。（笑）

音楽、高鳴る。照明変化し、イーダとおばあさんの前に中割パネルが両方閉まり、場面が変わる。音楽終了。

学校にて。【S E】学校の校庭のざわめき。舞台前にリーザ登場。クラスメイトの女子二人、クララとインゲがリーザに近づく。

クララ

（リーザに）ねえ。あんた今度の球技大会、出ないでくれる？

リーザ

出ていって、先生に言われたわ。

インゲ

あんたが出たら、うちのクラスは最下位よ。

クララ

分かる？ 出ないでほしいの。風邪をひいたって、休みなさいよ。

インゲ

分かった？（リーザの髪をつかむ）

下手よりルイーゼ登場。

ルイーゼ

ハ―イ。何？ 楽しそうね。

リーザ

ルイーゼ。

ルイーゼ

なんで髪をつかんでんの？ あー、かわいそう。三本も抜けた。元に戻しなさいよ。

インゲ

無理よ。

ルイーゼ
インゲ
キャアッ！
じゃあ抜くわ。(インゲの髪を抜く)

ルイーゼ
インゲ
(それを指さして) いっぱい抜いた！
この人が球技大会に出るって言うからよ！

クララ
ルイーゼ
出たらどうだっていうの？

クララ
ほかのクラスに負けるでしょ！

インゲ
負けたら、クラスの順番が一年間、みんな後回しになるの！ すっごい責任かかってんのよ！

クララ
ルイーゼ
出ても負けないわよ。

クララ
ルイーゼ
え!? あー、そう！ もし負けたら、どう責任とんの!?

ルイーゼ
私の髪の毛をあげるわ。

リーザ
ルイーゼ
全部よ！ ツルっぱげよ！

インゲ
ルイーゼ
好きなだけ取んなさいよ。

クララ
ルイーゼ
・・・分かったわ。

クララとインゲ、走り去る。

リーザ
ルイーゼ
・・・ごめんね！ ルイーゼ。

ルイーゼ
いいの。こんどヘンなこと言ってきたら、あいつらの口にソーセイジでも突っ込んでやるわ。(【S E】授業開始のベル) 授業だ。急ごう。

リーザ
あっ！ 鞆を忘れてきた。音楽室。

ルイーゼ
取ってきてあげる。先に行つてて。

音楽ブリッジ「授業開始」。ルイーゼは上手にダッシュで退場。リーザは下手に退場。入れ替わって下手よりシュタイナー先生登場して授業開始。音楽ブリッジ終了。

シュタイナー先生
おはようございます。今日は、先週に引き続き、ジッドの「狭き門」を読み進んでいきます。

中割パネルが両方開く。教室の机が前に三つ。奥に一つ置かれている。前列下手よりクララ、リーザ、インゲ。ルイーゼがリーザの鞆を持って登場。シュタイナー先生に見つからないように奥の机について、リーザに鞆を渡す。

シュタイナー先生
前回出て来た「神聖な人々は、神と融合することではなく、無限にして不断の、神への接近である」という言葉の重要性は、理解していただいたと思います。さて、「狭き門」から神に奉仕する道を進もうとする決意。そして「ジェローム」への現世的な「愛の欲求」。この二つの葛藤

ルイーゼ

が出て来ましたが、ルイーゼ。「狭き門」とは？
は？ 狭い門？

シュタイナー先生

ルイーゼ

「狭き門」について、聖書になんて書いてあると出て来ましたか？
狭き門とは・・・広くない門である。裏門かな？

シュタイナー先生
リーザ

リーザ。聖書は「狭き門」についてなんと言っています？

「力を尽くして狭き門よりはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広く、これよりはいるもの多し。命にいたる門は狭く、その道は細く、これを見いだすもの少なし。」

シュタイナー先生

そうです。（用紙を配り）これから「狭き門」について、あなた方が考えたことを書いてもらいます。あなた方の人生の中で、狭き門を実感する時はいつか。書きなさい。

先生は下手に退場。リーザはスラスラと書き出す。クララとインゲはリーザの原稿を奪い、それを読んで自分の文章の参考とする。ルイーゼはその様子を見て、ポケットからヘビや虫を次々取り出して、いじめっ子を脅かす。音楽「問題児」スタート。声を上げて泣き出すクララとインゲ。教室の修羅場に気づくシュタイナー先生。

シュタイナー先生

ああっ！ どうしたのです！？

ルイーゼ

（虫やヘビたちを指して）窓から入って来たー！（ヘビを先生に）

シュタイナー先生

ギヤアアアアア！

全員、大騒ぎしてヘビや虫たちと格闘。中割パネルが両方閉まる。時間経過して中割前、シュタイナー先生を待ち構えるルイーゼ。音楽終了。

ルイーゼ

先生。

ドキリとするシュタイナー先生。

ルイーゼ

・・・毎朝の行進ですが、リーザはついて行けません。みんなより何周も遅れて、それがクラスの人から馬鹿にされる原因になっています。行進をやめていただきたいのです。

シュタイナー先生

それは出来ません。行進は全体の規律を高める重要な課題です。今年度は女子校でもとくに力を入れるよう、教師同盟から指示が出ています。あなたも模範的なドイツ国民であるよう、努力するのです。

シュタイナー先生、退場。クララとインゲ登場。

クララ

また身体障害者の擁護？

ルイーゼ

リーザは足は悪いけど、あんたたちみたいにバカじゃないのよ。

インゲ

クララ

ルイーゼ

クララ

聞いた？ クララと私をバカだって！
この間の約束、覚えてるでしょうね。球技大会で負けたら、髪の毛を全部切ってもらわよ。
分かってるわよ。そのかわり、もし勝ったら、クラス全員でやつてもらいたいことがあるの。
なによ？

生徒たちは下手に退場。入れ替わってシュタイナー先生と男の先生が上手前に登場する。

シュタイナー先生

男の先生

シュタイナー先生

行進、はじめ！（笛を吹く）ピッピッピッピッピッ……。
シュタイナー先生のクラスは、どうしてあんなったんですか？
単なる偶然ですわ。（笛を吹く）ピッピッピッピッピッ……。

中割パネルが両方開く。生徒（クララ、インゲ、ルイーゼ、リーザ）が横一列で行進している。クララ、インゲ、ルイーゼは足に包帯をして、リーザと合わせて足を引きずるように行進する。

リーザ

ルイーゼ

インゲ

クララ

インゲ

クララ

ルイーゼ

馬鹿げてるわ。クラスみんなが足を怪我してるなんて。
約束したのよ。球技大会で勝ったから。
相手チームのボールは、なぜか全然弾まないようになってたわ。
それに、審判の兄ちゃんが、みんな私たちの味方だった。
しかもボールを渡すたび、みんなあんなにウインク！
何を与えたんだか、聞くのも恥ずかしいわ！
噂なんて信じちゃダメよ。とにかく、勝ったんだから！

男の先生

シュタイナー先生

行進になりませんな。クラス全員が怪我人では。
（笛を吹く）ピッピッピッピッピッピッ……。

中割パネルが閉まる。先生方は上手に退場。下手からルイーゼとリーザが登場。ルイーゼは手に釘抜きを持つ。

リーザ

ルイーゼ

何をする気？

しーっ！ クララたちが、あんたをいじめる作戦をたくらんだって。
やられる前にやつつけてやるの。そっちを見張ってて。もうじきベルが鳴るわ。

ルイーゼは中割パネルを狭く開ける。中は一人用のトイレ。木で出来ている箱で、中央に尻を乗せる丸い穴が開いている。釘抜きで、上面のクギを一本一本抜いていくルイーゼ。

リーザ

(トイレの外から) 何してるの！

ルイーゼ

クララはこの時間、毎日必ずこのトイレにはいるの。ここに腰掛けたが最後、肥だめにドッポンで計画。

リーザ

ルイーゼ！ やりすぎだわ！

ルイーゼ

私たちにはかなわないと思わせとかないと、いじめはなくならないのよ。うううう (くさい)。オオオ！ やった。はずれたわ。

【SE】休み時間のベルが鳴る。

ルイーゼ

来るわ。こつちへ来て。

二人は下手にはずす。わいわいと生徒の笑い声がして、クララとインゲが登場。生徒のあとからシュタイナー先生が登場。

シュタイナー先生

どいて！

シュタイナー先生は、トイレにはいろうとするクララを押しつけ、慌てた様子でトイレにはいり、自分で中割パネルを閉める。呆氣にとられるルイーゼとリーザ。

ルイーゼ

やばい。

舞台奥から、【SE】「ドッポーン！」と肥だめに落ちる音と、シュタイナー先生の、この世のものとは思えない悲鳴が聞こえる。

シュタイナー先生

ギョエエエエエエエエエッ……！！

音楽「青春の森」スタート。照明、変化して、中割パネルが両方開く。美しい森の中。立木2本。【SE】鳥のさえずりなど、森のざわめきが続く。ルイーゼがリーザを連れてやってくる。息がはずんでいる。

ルイーゼ

ここよ。ここを登って行ったところに、泉が湧き出ているところがあるの。川の源流なのよ。

リーザ

遠いの？

ルイーゼ

ええ。でも驚くくらいおいしい水が湧いてるのよ。飲んだら、嫌なことなんて忘れちゃうくらい。行ってみる？

リーザ

ええ。

二人、山道を歩き始める。

リーザ
ルイーゼ
リーザ
ルイーゼ
リーザ
ルイーゼ
リーザ

私がこんな山に登ったって知られたら、家族に怒られちゃうわ。
大丈夫よ。私が一緒なんだから。手を貸して。(リーザの手を握る)
歩いたら、息が切れて。呼吸してるって感じ。
気持ちいいでしょ。
ゲーテが愛した、青春の森ね。
さすが文学少女は言うことが違うわ。(手を放す)
アッ！

リーザ、足を滑らせて転ぶ。音楽止まる。驚くルイーゼ。

ルイーゼ

しっかり！ しまった。足を打った？ 血が出てるわ。

慌ててハンカチを出して包帯代わりに結ぶルイーゼ。

ルイーゼ

ごめん。なんてことしちゃったんだろう。ごめん、ごめん、ごめん、ごめん。

謝り続けるルイーゼの目からみるみる涙が溢れる。驚き困惑するリーザ。

リーザ
ルイーゼ
リーザ
ルイーゼ
リーザ
ルイーゼ
ルイーゼ

大丈夫よ。すりむいただけ。たいしたことないわ。
帰ろう。私が悪かったの。
いいのよ。行きましょう。
ダメよ。
平気よ。ね。行きたいの。(ルイーゼを見つめる) 行きましょう。
(見つめ合って)・・・ええ。

二人立ち上がり、少し歩いて止まる。照明変化。

ルイーゼ
リーザ
ルイーゼ
リーザ
ルイーゼ

ここからは少しぬかるみな。足を取られるから、おぶって行くわ。
重いわよ。
平気よ。(リーザをおぶって歩き出す)
ねえ、ルイーゼ。なぜいつも私を助けてくれるの？
ほかに助けたい人がいないから。あんただけじゃん、うちの学校で弱い人って。ほかはみんな強いもん。強くなろうとしている。人間なんて、強くなくていいのに。

リーザ
ルイーゼ
リーザ
ルイーゼ

あなたは、強いでしょ？
そうかな？ 私は、私でいたいだけよ。何が起こっても。
ルイーゼ・・・あなただけよ。友達は。
私もよ・・・。

しばらく無言で歩き、止まる。照明変化。

ルイーゼ

着いた。ここよ。

音楽「泉の森」スタート。【SE】泉が湧く音。リーザはルイーゼの背中から降りる。静かに中割パネルが閉まる。

リーザ

きれい。

ルイーゼ

（泉で顔を洗う）ふううう。（両手で水をすくい飲む動き）あああ、おいしい！飲んでごらん！

リーザ

（両手で水をすくい飲む）おいしい！

ルイーゼ

おいしいでしょう！

リーザ

おいしい！水って、こんなにおいしいのね。（もう一度飲む）こんなおいしい水飲んだの、生まれてはじめて。

ルイーゼ

よかった。連れてきた甲斐があった。

喜ぶルイーゼ。

リーザ

ルイーゼ・・・あなた、不思議な人だわ。神様が、私に遣わしてくれたみたい。

ルイーゼ

またゲーテ？

リーザ

いいえ。どうして私の前にあらわれたのかと思って。

ルイーゼ

親父同士が友達だったからでしょ。

リーザ

（微笑む）そうね。

ルイーゼ

出会う人とは、出会うようにできてんのよ。

リーザ

・・・今、文章が頭に浮かんだわ。

ルイーゼ

何？

リーザ

あなたについて。言っている？

ルイーゼ

ええ。

リーザ

ルイーゼ・キンスキー・ポラックは、ある日私の前にあらわれた。両足を広げて立ち、ポケットにヘビや虫を飼う女の子だった。彼女は私を森に連れて行き、地球上で一番美しい泉の水を飲ませた。

ルイーゼ

ハッハッハ。小説家ね。マネ出来ないわ。

リーザ

（周囲を見渡して）見て。時間が止まったみたい。そんな気がしない？時間が止まっているわ。

ルイーゼはリーザの手を握る。音楽、高鳴り、舞台前の照明溶暗。

中割パネルが両方開く。舞台奥はおばあさんの家の居間。おばあさんとイーダの会話に戻る。リーザとルイーゼは退場。

おばあさん

一生に何度か、時間が止まったような感覚になる時があるものだわ。そ

イーダ
おばあさん

んな時の一瞬は、永遠の思い出になるものよ。過去ではないんだわ。きのうのことを忘れてしまっても、絶対に忘れられない。ずっとそこにある。そんな時を、経験したことある？
いいえ。
いつか経験するわ。

音楽静かに終了し、照明が明るくなる。エヴァとヘルガがキッチンからコーヒーセットを手に登場。

エヴァ
ヘルガ
おばあさん
エヴァ
おばあさん
ヘルガ
おばあさん
エヴァ
おばあさん
ヘルガ

コーヒーがはいりましたよ。
どうぞ。
ありがとう。
チェスはやってないの？
これからやろうとしていたところです。
今ごちそうが出来ますからね。おなかすかせていてね。
なんにも食べちゃいないわ。
クリームと砂糖は？
自分でやりますよ。
ファッファッファッファッ（笑う）。

エヴァとヘルガ、キッチンへ退場。

おばあさん
イーダ
おばあさん

（コーヒーを一口飲む）さ、チェスをする？
よかったら、ルイーゼの話をもっと聞かせてくださる？
ええ。（嬉しそう）・・・いいわ。出会った頃は私にも分からなかったけど、私があなたぐらいの頃のドイツは、大変な時代になろうとしていたの。一九三三年、ヒトラーが首相になってからは、人のいいおじさんも、近所のパン屋さんも、誰もが突然国家社会主義者になってしまった。ルイーゼが言う通り、ドイツの空を見上げれば「祖国」という文字が浮かんで見えていたわ。（行進曲風の音楽「ハーケンクロイツ」フェイド・イン）それが、私とルイーゼの時代だった。

音楽が大きくなる。「ハーケンクロイツ（鉤十字）」の大きな旗を手にしたヒトラー・ユーゲントの青年（ハンス）が舞台前を横切る。
中割パネルが両方閉まる。【SE】街の雑踏。舞台前、下手よりクララとインゲが登場。紙袋の中の菓子を食べている。上手側の袖からリーザが登場。音楽終了。

リーザ
クララ
リーザ

クララ！ インゲ！
リーザ！
ねえ。知ってたら教えて。なぜルイーゼはドイツ女子同盟には入れない

の？

クララ

はいれないとしたら理由は一つだわ。ルイーゼがユダヤ人だからよ。

リーザ

ユダヤ人？ でもルイーゼの方が私たちより金髪だし、目の色も私の方が黒いわ。

クララ

そういう人もいるのよ。ああ、ユーウツだわ。私たちのクラスにユダヤ人がいるなんて。どうせ有力者の娘でしょ？

インゲ

医者の娘よ。資本家の手先だわ。

クララ

おっつけ追放ね。今年になって学校はすつごく楽しくなったのに。

インゲ

キャンプファイヤーにハイキング。

クララ

ユダヤ人のことなんかで悩またくないわ。早く消えてくれればいい。

リーザ、上手に走り去る。

インゲ

リーザ！

照明変化。クララとインゲ退場し、同時に中割パネルが両方開く。

街の雑踏の【SE】消える。舞台はリーザの家。父オットーがいる。

部屋に走り込んで来るリーザ。

リーザ

パパ。ルイーゼはユダヤ人なの？

オットー

・・・そうだよ。

リーザ

ユダヤ人は、どうなるの？ みんなは、ドイツから追放されるって言うてるわ。

オットー

そういうことを言っている人たちはいるが、出来るはずがないんだ。ユダヤ人抜きでドイツが成り立つはずがない。今この国は新聞や芸術、政治家から労働組合の幹部にいたるまで、ほとんどユダヤ人で成り立っている。医学や文学、演劇もそうだ。そういう人抜きのドイツをつくろうなんてまったく馬鹿げた考えだ。追放なんてあるわけないよ。

リーザ

本当？

オットー

本当だとも。今、ドイツ中が熱にうなされているように騒いでいるが、あのヒトラーの政権は短命で、すぐにつぶれると、良識ある人はみんな思ってる。パパもこれから、反ユダヤ主義に抗議する集会に出かけくるよ。

外出しようとする父。入れ違いに兄のハンスが帰宅する。

ハンス

(ナチス式敬礼) ハイル・ヒトラー！

オットー

(右手を挙げ、軽くそれに答えて無言で退場)……………

ハンス

リーザ。プレゼント。(クッキーの箱を開き、ひとつ食べる)おいしいよ。(リーザに渡す)

リーザ　ありがとう。（このクッキー）どうしたの？

ハンス　（笑いながら）条例に違反したユダヤ人の店を注意しに行ったら、主人から渡されてね。

リーザ　ハンス……なぜ今、ユダヤ人が問題になっているの？

ハンス　……一番大きな問題は、奴らはドイツ人ではないのに、このドイツで幅をきかせすぎてるってことだな。ユダヤ人ががっぽり金儲けをしているその裏で、多くのドイツ人が失業して苦しんでいる。ユダヤ人をこの国から追い出せば、みんなが仕事を得て幸せになるんだそうさ。僕は、個人的に恨みはないけどね。

リーザ　ユダヤ人の友達もいるでしょ……モーリス。

ハンス　うん。（笑って）おかしい奴だ。発明家だね。望遠鏡とか、へんなものを研究して、なんでも自分で作っちゃう（笑う）。僕が思うに、ユダヤ人てのは僕らとは違う考え方を持っている人種だよ。変わってて、実に奇妙だ。

母パウラ登場。出かけるところ。エプロンをはずしつつ、ハンドバッグを手をしている。

パウラ　リーザ、ハンス。今夜はママ、女性同盟の集会に参加しなければならぬから遅くなるわ。食事は台所につくってあるから、自分たちで勝手に食べてちょうだい。

ハンス　分かった。僕もこれから青少年団の夜会に行かなくちゃならないから、今食べておくよ。

パウラ　（溜め息）はあ……。集会、集会。親は親、子供は子供で集会ばかりね。泥棒はさぞかし仕事がしやすいだろうよ。そこら中の家庭がもぬけの殻になってるんだから。

ハンス　大丈夫。ぼくらの夜警団が立ってるから。

パウラ　火に気をつけて。行ってくるわ。

ハンス　母さん。今日、この間の身体測定の結果が報告されたんだ。僕の人種的遺伝子は、「第一級」だってさ。親衛隊に合格できるって。

母は得意げな息子の髪を撫で、退場。

リーザ　ハンス。どうしても行かなきゃならないの？

ハンス　今夜はゲッベルスの演説をみんなで聞くことになってるんだ。もし聞いてないと、何言われるか分からないからね。先に食べるよ。

兄は台所に退場。リーザは舞台前に出る。その背後に中割パネルが両方閉まる。【S E】街の雑踏の音。下手からルイーゼが登場する。

リーザ　ルイーゼ！（心配そうな顔で寄る）

ルイーゼ

リーザ

ルイーゼ

リーザ！ なんなの、その顔は。ごめんね。パパから聞いたの。ルイーゼはユダヤ人だって。（両手を開き）「祖国イスラエルよ。我らの祖国は我らの心に！」祖国がなくても、地球に生きていられればいいわ。私と話してるところを女子同盟の誰かに見られたら、言われるわよ。

リーザ

私には分らないの。なぜユダヤ人が嫌われるのか。

ルイーゼ

私はとつくに嫌われてるけど。今日、パパの病院がドイツ人の診察をすることを禁止されたわ。分らない。何十年も病気のドイツ人を助けてきたのに。治った患者さんはみんなパパに感謝してた。この街の殆どの人はパパに感謝しているのに。

リーザ

その通りよ。きつと、みんなすぐに間違いに気づくわ。うちのパパもユダヤ人排斥運動なんて、間違った行為だって怒ってる。

ルイーゼ

見て。そこら中の建物に張り紙がしてあるでしょ。「ユダヤ人お断り」きのうアイスクリームソーダを買いに行ったお店にも、今日になると張ってあるのよ。

照明変化し、街の雑踏のSEは消える。ルイーゼは退場して、下手側の中割パネルだけが開く。舞台奥にシュタイナー先生の机と椅子。

シュタイナー先生が座っている。

リーザ

シュタイナー先生。質問してよろしいでしょうか？ どうしてユダヤ人は排斥しなければならないんでしょうか？

シュタイナー先生

一つの、優秀な種族の間に、別の下等な種族が混じると、それらが交わって、混血が生まれますね。するとどうなるでしょう？ 長い間にはみんな混血になって、優秀な民族の血が絶えてしまうのです。たとえば、（スタンド式の図解を開いて見せる）足の裏の形一つとっても、優れたアーリア人種と黒人とは、まったく機能的に差があります。黒人の足は扁平で、明らかに劣っていますね。人類の歴史において、神の姿に似せてつくられた人種は、我々アーリア人種だけなのです。古来より、優れた美しいアーリア人種に対して、毛むくじゃらでどす黒い肌をした劣等人種が、絶えず闘争を挑んで来ました。ユダヤ人のような劣等人種と交わることで人種が劣等化してしまうことは、我々の子孫に対して、取り返しのつかないあやまちなのです。

でも、優秀なユダヤ人も世の中にたくさんいると父から聞いています。

誰です？

シュタイナー先生

マルクスやフロイト、アインシュタインもユダヤ人だと。

リーザ

あなたはマルクスやフロイト、アインシュタインを読んだことがあるのですか？

シュタイナー先生

いえ・・・

いえ・・・

リーザ

あなたのお父さんはマルクスの言っていることを信じるのですか？

シュタイナー先生

いえ・・・（共産主義者と言われる）そうは言って・・・

リーザ

シュタイナー先生

（くつて）そうでしょう。もし信じると言ったら監獄に住むことになり
ますよ。マルクスやフロイト、アインシュタインについては、党はまっ
たく認めていません。私は仕事がら、彼らの本に接しましたが、人間に
害をもたらす悪魔のたわごとだと、はつきり分かりました。決して読ん
ではいけませんよ。・・・リーゼ。本当のことを教えましょう。ユダヤ
人の本当の狙いです。彼らは今、祖国を持つていません。彼らの野望は
ただ一つ。自分たちの祖国を持つことなのです。私たちが戦わなければ、
ドイツはイスラエルと呼ばれるユダヤ人国家になってしまうかもしれま
せん。そうになったら、ドイツ人はユダヤ人の奴隷となり、ドイツ民族の
文化は、永久に失われてしまうでしょう。（まるでヒトラーのように急
に恐ろしく声を張り上げて）そんなことにするものか絶対!!（必死で気
持ちを静め、おだやかに）いいですね。私たちは、その瀬戸際に生きて
いるのです。

上手側の中割パネルだけが開き、リーゼの家となる。オットーとア
ルベルト、ルイーゼ。リーゼは下手から上手に移動。同時に下手側
の中割パネルが閉まり、シュタイナー先生はその奥に消える。アル
ベルトとルイーゼはコートを着て旅行用の鞆を持つ。

アルベルト

オットー

（オットーに）病院が没収された。党の研究施設に使うというわけだ。
家も取り上げられた。着の身着のまま、どうぞ出て行けと言うんだ。
ウルムに私の別荘がある。（アルベルトに別荘の鍵を渡し）使つてほし
い。ひとまず、そこで状況を見るんだ。

アルベルト

オットー

この間の選挙までは、私たちも立派なドイツ人のはずだった。
もちろんだとも。

アルベルト

私はドイツで生まれ育った。ここが生まれ故郷なんだ。ドイツ人の妻と
結婚し、ルイーゼが生まれた。身を粉にして働いて、病気のドイツ人を
救い続けてきたんだ。

オットー

これだけは理解してほしい、アルベルト。今は一時的な政治のヒステリ
ー状態なんだ。つまり、異常な状態だ。こんな状態はいつまでも続くも
んじゃない。ほんのちよつと前まで、あのヒトラーが演説をして、わけ
の分からんユダヤ人攻撃をしてる時、多くの聴衆はあざけり笑って馬鹿
にしていたじゃないか。あの聴衆は今もドイツのそこらじゅうにいるん
だ。心では間違っていると誰もが分かっているんだ。

アルベルト

私たちも、抗議のデモを行うべきだろうか？ ユダヤ人の集会を開いて、
ユダヤの星の看板を掲げて行進したら（どうなのだろう）？

オットー

（くつて強く）やめろ、そんな事は！（気まずい間。オットーも苦しい）
・・・刺激しない方がいいんだ。

アルベルト

（力弱く）アインシュタインが、アメリカへ逃げたそうだと。私たちも、
アメリカへ行くべきかな？ ユダヤ人らしく、放浪の旅へ。

オットー

君はこの国のアルベルト・ポラックじゃないか。大丈夫だ。ドイツを信

じて、いい国に戻すため、一緒に頑張つてほしい。

アルベルトは考え、うなづき、オットーと握手をする。照明変化。
上手側の中割パネルが閉まり、下手側の中割パネルが開く。椅子と
テーブル。椅子にパウラが腰掛けている。上手側の人物たちは中割
の奥に消えるが、オットーだけは妻に呼ばれてすぐ下手へ。

あなた。ちよつと話があるの。

どうしたんだ？

今日、大学から人が来て、あなたのような将来性のある学者が、ナチに
入党しないのはなぜかと聞かれたの。大学では、今年中にユダヤ人の教
授は全員解雇されるらしい。あなたは優秀なドイツ人だから、最高の待
遇を持って迎えたいと言つてゐるの。

オットー

最高の待遇？

パウラ

2階級特進して、主任教授へ。

オットー

（唾を飲む。考えて、振り返り）君は、どう思う、パウラ。

パウラ

もし断れば、今の助教授の地位さえ危ないって。

ハンスが帰宅する。

ハンス

ただいま。（ナチス式敬礼）ハイル・ヒットラー。

両親

ハイル・ヒットラー。

ハンスはそのまま別の部屋へ退場。

パウラ

あの子・・・毎日どこから帰ってくるたび、少しずつ洗脳されて変わ
って行くわ。昔のあの子は、どこへ行つてしまったのか・・・。

オットー

それでもナチに入党すべきかね？

パウラ

家族が無事に生きるためには。

悩むオットー。音楽BGM「田園」スタート。照明変化。下手側の

中割も閉まり、舞台前だけとなる。中割前に牧草を運ぶルイーゼ。

ルイーゼ登場。籐のバスケット（かご）を持つ。

ルイーザ

ルイーゼ！

ルイーゼ

ルイーザ！ よく来られたわね！

ルイーザ

駅までクルマに乗せてもらったの。何してるの？

ルイーゼ

牛に食べさせる牧草を集めてんの。自給自足の生活をしなきゃならない
から。いっぱいしの牧童よ。

ルイーザ

（笑う）景色のいいところねえ。

ルイーゼ

最高よ。森の中には「ユダヤ人お断り」の張り紙は張つてないもの。お

リーザ
ルイーゼ
リーザ
ルイーゼ
リーザ
ルイーゼ
リーザ
ルイーゼ

父様に感謝してるわ。学校の様子はどうか？
ユダヤ人の生徒は、みんな退校させられた。もめごとは減ったけど。
ハハハ。私がないから平和になったでしょ？
（笑う）毎日いろんな行事に追われて忙しいわ。
大変ね、国家の子は。クララやインゲは？
うん。今は、いじめられないわ。
そう。今日は泊まっていけるんでしょう？
日曜の夜までに帰ればいいの。
葡萄畑があるの。夕ご飯を食べたら、行ってみましょ。デザートになるわ。
ええ。

二人、上手に退場。中割が両方開き、夜の葡萄畑となる。満点の星。
上手奥から葡萄の房を手をリーザとルイーゼ登場。二人は草の上に横になる。【SE】虫の鳴き声。

ルイーゼ
リーザ
ルイーゼ
リーザ
ルイーゼ
リーザ
ルイーゼ

もつと食べる？
おなかはちきれそう（笑う）。
フフフ。
（仰向けに寝そべって星を見る）ああ、星がきれい。
うん・・・あの光は、本当はすごく昔の光なんでしょ？
そうらしいわ。
あの光が生まれた時、世界は平和だったのかな？

間。星を見ながら考える二人。

リーザ
ルイーゼ
リーザ
ルイーゼ

もつと、違う時代に生まれたかった？
なんども生まれ変わって、あなたと会っているのかもしれない。この何千年。
素敵。18世紀のフランスや、2千年前のベツレヘムに？
そして葡萄を食べて、星を見上げていたのかもしれない。（二人、笑う）
人間の一生なんて、ほんの一瞬よ。だから、こんな一生だって、我慢出来るんだわ。

音楽終了。ルイーゼの悲しみが伝わって来て。

リーザ
ルイーゼ
リーザ

ルイーゼ・・・私たちドイツ人は、あなたたちユダヤ人に対して、とても悪いことをしていると思うわ。でも、きつといつか分かり合える日が来ると思う。
そうかな？ その前に、何もかも滅んでしまわないといいけど。
（悲観的な意見に沈む）人間で、それほど馬鹿じゃないと思う。

ルイーゼ

私は信用していない、人間なんて・・・信じられるのは、あの星や、風、花、動物。自然の中にあるものだけよ。

リーザ

（控えめに）私は、信じたい。文学や、絵画や、音楽。人間がつくったものの中にも、美しい価値のあるものがあるって。でも、今の私には、芸術の中だけに価値のあるものがあつて、現実の世界のことは、意味のない、どうでもいいことのように思えてしまう。（溜め息）きつと、現実逃避しているんだわ。

ルイーゼ

リーザ。あなたは私と違って頭がいいんだから、もつと自信を持つのよ。ねえ、教えて。この先、世界はどうなると思う？ 本当にどちらかが絶滅するまで、戦争を続けると思う？ それとも、最後の一人まで戦い続ける？ 私、最近夜寝る前に想像するんだ。最後の一人になって、世界をさまよい続け、そして息絶える。

リーザ

もしそうになったら、本当に馬鹿だわ。そうならないために、何かをしなければ・・・。こんな世の中は、本当に馬鹿げてる。私とあなたなんて、何一つ変わらない人間なのに。

ルイーゼ

そうだよ。何が違って、こうなったんだろう。私、一度だけ、自分がユダヤ人であることを嘆いたことがあるの。パパに向かって、パパの子じゃなければよかったって。（泣き出す）

リーザ

・・・ルイーゼ。

音楽「野の花」スタート。

ルイーゼ

あんなに素敵なパパのことを、そう思ったのよ。だからヒトラーを許せないの。

泣くルイーゼ。リーザはしばらく考えていたが。

リーザ

ルイーゼ。何か私に頼みたいことはある？ 私、昔からあなたに助けてもらってばかりだったから。もし、私に何か出来るなら、なんでも頼んでちょうだい。

ルイーゼ

ないな・・・私、人に何かを頼むのは好きじゃないのよ。あなたを助けたって、別に頼まれたわけじゃない。こっちが好きで勝手に助けただけなんだから、恩に感じることはないのよ。自然に出会って、自然に助け合った。その方が、素敵じゃない？

リーザ

（うなづいて）分かった。

ルイーゼ、舞台前の方を見つめて。

ルイーゼ

きれいな野の花が咲いてる。

ルイーゼは立って舞台前へ。リーザも続いてそばへ。中割パネルが

両方閉まり、奥は舞台転換。

ルイーゼ

野の花は素敵。何も頼まず、媚びず、威張らず、名もなく咲いて、散って行（ゆ）く。戦争が終わって、この国が屍だらけになっても、絶対に咲いてるわ。

リーザ

そうね。戦争が終わって、私たちがいなくなっても、きつと咲いてる。

ルイーゼ

もし生まれ変わったら、野の花になりたい。（目に涙が溢れる）もう人間は嫌だわ。

リーザ

（顔を覆って泣き出す）

ルイーゼ

リーザ？ どうしたの？

リーザ

（泣きながら）あなたが、そんな思いになるなんて。

ルイーゼ

大丈夫よ。弱気になったわけじゃないの。花がきれいで感動しただけなのよ。泣かないで。行きましよ。

二人、退場。 中割パネルが両方開き、おばあさんの家になる。

おばあさん

ルイーゼが言った言葉が忘れられないわ。野の花は、何も頼まず、媚びず、威張らず、名もなく咲いて、散って行く。野の花になりたいって、そう言ったのよ。スラスラとね。それから、あなたは頭がいいんだから、もつと自信を持ちなさいって。どれだけその言葉に支えられたことか。

音楽、静かに終了する。

おばあさん

ルイーゼが学校から去ったあと、我が家の一番の問題は、兄のハンスと父の衝突だった。ナチスへ傾倒して行く兄をめぐって、毎日のように親子喧嘩が続いたの。

ハンス、オットー、パウラ、リーザ登場。

オットー

どうして何の罪もないユダヤ人を攻撃して傷つけたんだ。お前も突撃隊の仲間なのか！

ハンス

だからどうなんです？

オットー

あの連中は暴力団みたいなものじゃないか！

ハンス

党が定めた行動に参加してなんで咎められるんです!?

オットー

ユダヤ人を傷つけただろう！ 店を壊して、人にも危害を加えたんじゃないか!?

ハンス

なぜユダヤ人の肩を持つんです!?

オットー

彼らも人間だからだ！ 人道上の観点から物を言ってるんだ！ お前も

ハンス

私の子だ。人の道に照らして考えろ！

今、私の子だと言いましたが、全てのドイツ男子は総統の子だから、命令は絶対なんだ！

オットー

冗談じゃない！ お前は絶対に総統の子じゃない！ 私と母さんの子だ！

パウラ

あなた、気をつけて。気をつけて、あなた。

オットー

何を気をつけるんだ？ 自分の息子が私を密告するとでも言うのか！
え、ハンス!? 私を密告するのか!?

ハンス、無言で父を睨みつけ、家を出て行く。苦悩する父。

おばあさん

兄は純粋な人だったから、党の言うことを信じるのも早かった。父はとも悲しんでいたわ。

リーザ

パパ。手紙が届いているわ。（父に手紙を渡す）

オットー

大学から？（封を切って手紙を読む）フィシュキン教授が大学を解雇されたそうだ。ユダヤ系だったからだろう。私に、彼の代わりに教授になるつもりがあるかと言ってきた。

パウラ

おやりなさいよ！

オットー

ナチに入党することが条件だ。

パウラ

・・・断ったら？

オットー

教授と同じ運命だろう。

イーダ

ナチスは、六百万人のユダヤ人を殺して、ドイツを世界の悪者にした、ひどい党だったんでしょ？

おばあさん

今はそう言えるけど、その当時、私たちはまだ希望を持っていたの。前の大戦（※第一次世界大戦）で負けて、自信を失っていたドイツ人にとって、ドイツ人を中心にした力強い国に立て直すことは、悲願だった。ハンスは私によく話してくれたわ。

右の会話の間に父母は退場。部屋のソファでヒトラーの「我が闘争」を読むリーザ。ハンス、上機嫌で登場。

ハンス

リーザ。何読んでんだい？

リーザ

お兄ちゃんの本。「我が闘争」置いてあったから。

ハンス

えらいね！ 総統の言葉を学んでいるんだ。

リーザ

分からないところもいっぱいあるけど。

ハンス

（笑って）もつと勉強しなくちゃ。リーザ！ 今日はずっと素晴らし
いことがあったんだ。今まで生きてきて、一番感動した日になった！
何があったか分かるかい？

リーザ

いいえ。

ハンス

ヒトラー総統をこの目で見て、演説を聞いたんだ！

リーザ

ええー！

ハンス

すごいだろう！ ドイツ少年団の代表として、党大会の旗持ちに選ばれてね。党の旗を手に会場に並んで、総統の演説を聞いたんだ!!

リーザ
ハンス

どうだった!?

もう！ 感激なんてもんじゃないよ！ 總統の姿を見るだけで涙が出ちゃってね。だけど、一言一言聞き逃すまいと全神経を集中させていた。あの人は普通の人間じゃないよ。きつと半分は神様なんだ。すごいオーラだよ。なんでも、かつてナポレオンもそんなオーラがあつたらしいけど。(ヒトラーの演説を真似て)「ドイツを、ドイツ人の手に取り戻そう!」「千年続く帝国を、国民全員で築き上げよう!」「ドイツ国民の未来は、我々自身のうちに存在するのだ!」あの自信に満ちた声を聞いているだけで身体が震えてくる。あの人は、六百万人もいたドイツの失業者たちみんなに仕事を与えた。家も与えた。今、アウトバーンという高速道路をつくり、これまで高嶺の花だった自動車を、誰でも持てる世の中にしようとしている。ドイツを導くために天が遣わしてくれた、真の指導者だよ!

おばあさん
ハンス
リーザ

ハンスは身も心も奪われていたわ。ヒトラーは彼のアイドルだったのよ。
(明るくナチス式敬礼) ハイル・ヒットラー!
(明るく敬礼を返す) ハイル・ヒットラー!

ハンス退場。礼服のオットー登場し、音楽「入党」スタート。

おばあさん

父がナチスに入党した日、私は、父に連れられて、教授への昇進を祝う党の歓迎会やパーティに出席したの。どこに行っても父は名士扱いで、驚いたわ。娘としてとても誇らしい気持ちだった。

腕を組み歩く父とリーザ。舞台前に進む。

リーザ

ナチスの党本部ってすごいね。シャンデリアがたくさん下がってて。絵本で見た宮殿みたい! (興奮している)

オットー

古い貴族の建物を没収して使っているからさ。

リーザ

今日のパパ、まるで大臣みたいに偉い人に見えたわ。だって、ナチスの偉い人が、みんなパパにペコペコしているんだもの。

オットー

正式にナチスの黨員になった大学主任教授だからねえ。だけど、パパもこんなに手厚くもてなされるとは思わなかった。ああ、ちよつと待った。ここで人と待ち合わせているんだ。リーザ、誰か見えないかい?

イーダ

誰?

音楽終了。暗がりの中から、やつれた風貌のアルベルトが登場。

アルベルト
オットー
おばあさん

オットー……。
アルベルト。
ルイーゼのお父さんだった!

中割パネルが閉まり、舞台前にオットー、アルベルト、リーザ。

オットー

呼び出してすまん。アルベルト。実は……。

アルベルト

大学の主任教授に昇進したそうじゃないか。おめでとう。

オットー

ナチスに入党したんだ。そのことを言っておかなくてはならんと。

アルベルト

分かっているさ。ナチスに入党した君が、別荘にユダヤ人をかくまっていることが知れたらコトだ。これは返すよ。

アルベルトは別荘の鍵を返そうとする。オットーは注意深く周囲を確認して鍵を受け取る。

オットー

アルベルト。誤解がないように話しておきたい。私がナチスに入党したのは、ナチスをいい方向へ導くことが出来ると考えたからなんだ。ユダヤ人の問題も、最善の方法で決着出来るように考えてみる。実際、今日もそのことで幹部と話し合ったところなんだ。

アルベルト

ユダヤ人から仕事を奪い、住む所も奪う。その先に、どんな最善の方法があるんだ？ 強姦する方法か？ それとも安楽死の方法か？

オットー

ヒトラーだって国際世論を無視してユダヤ人の迫害なんか続けられなくなるんだ。国際社会で生きて行くためには。多くの国から非難されるようなことは絶対に出来なくなる！ 分かりきつてることじゃないか！ そうなった時に、新しい方法が必要になる。そのための提案をして行きたいんだ。

アルベルト

ありがとう。だがまったく期待はしていない。姿を消すよ。娘のルイーゼと。隠れ家は見つけてある。奴らには絶対につかまるもんか。さよなら、リーザ。今まで娘と仲良くしてくれてありがとう。お元気で。

アルベルト、退場。

リーザ

パパ。ルイーゼたちは、どこへ行くの？

オットー

聞かないで。行かせてあげるんだ。

オットー退場。音楽「呼びかけ」スタート。照明、中央のリーザだけを照らす。リーザは心の中でルイーゼに呼びかける。

リーザ

ルイーゼ。どうか分かってちょうだい。私たちは、決して悪い人間ではないの。パパも、ママも、ハンスも、みんな優しくて、何よりも思いやりを大事に生きているの。決してユダヤ人を憎んだり、悪く思ったりしていないし、ユダヤ人とうまくやって行けたらいいと、心の底から望んでいる。うちがナチスに入党したのも、ユダヤ人を迫害するためじゃないの。むしろ、この関係を少しでもよくするために役に立てればって。もし間違った考え方がそこにあるなら、それを正しい道に直したり、教え

たり。そのために入党したんだって、家族はみんなそう思ってる。ルイーゼ、どうかそのことを、あなたには分かってほしいの。・・・ルイーゼ・・・聞こえる？ ルイーゼ・・・私、あなたの声が聞きたいの。ルイーゼ・・・(叫ぶ) どこにいるの!?

音楽終了。照明、変化。クララとインゲ、楽しそうに登場。

クララ

リーザ。これから大学の舞踏会に行かない？

インゲ

独身のかつこいい男性がたくさん集まるんですって！

クララ

だから念入りに化粧したの。どう？

リーザ

きれい。でも、私、足が悪いから踊りは・・・。

インゲ

だから私たちの引き立て役になれるでしょ。

リーザ

ああ・・・。(理解する)

クララ

キャハハハ！ それ言っちゃダメ！

インゲ

いいから！ 行こう行こう！

音楽「舞踏会」スタート。中割パネルが両方開き、大学の講堂で開かれた舞踏会の会場となる。中央に飲食物が置かれたテーブルと椅子。ムードのある照明。踊る男女。クララとインゲはすぐに男性と踊り出す。リーザは周囲を見回し、所在なげに椅子に座る。上手の椅子にアルバムを手にしたおばあさん。そばにイーダ。

おばあさん

舞踏会なんて出かけたのは、後にも先にもその時一回だけ。会場の講堂には、大勢の若者が溢れていたけど、こんな私に声をかけてくれる男性が、たった一人だけいたのよ。

ナチス親衛隊の制服に身を包んだ青年カールがリーザに話しかける。

カール

退屈なんで、食べ過ぎちゃいました。トリですけど、いかがですか？

鶏肉を乗せた皿をリーザに勧める。

リーザ

(手で断る合図)

カール

そうですね。(皿を持ったまま、リーザの隣の椅子に座る) 踊りが苦手なんで、もう三人くらい足を踏んづけてしまいで・・・緊張すると、どっちの足を出したらいいか分かんなくなるんで。難しい・・・。

左・・・右・・・左・・・右。あいつはうまいなあ。・・・そうか！

ああやればいいんだ。右踏んで・・・左か・・・はーん・・・。(鶏肉の皿をテーブルに置き、リーザを誘う) ちょっと踊ってくれませんか？

(驚く) えっ？

リーザ
カール

コッを発見したんで。

リーザ (手を引かれる) あっ。

カールは強引にリーザを立たせ、踊り始める。

カール 右踏んで、左。右踏んで、左。あ、これでいいんですね。右踏んで、左、右踏んで、左。よし。もっとくっついて踊りましょう。あっ。

カール、リーザの足を踏んづける。

カール また踏んづけちゃいました。すみません。(※あえての『い』)
リーザ いいんです。私、足が不自由なものですから、ついていけなくて。気にしないでください。

カールは舞台奥の方へ離れて行く。

おばあさん 彼は何も言わないで離れて行った。だから、もう二度と会うことはない
カール と思ったの。ところが、すぐに戻ってきてね。

リーザ (飲み物のグラスを二つ手に持ち) どうぞ。

おばあさん (受け取って)・・・どうも。(以下、カールと会話のマイム)

カール・アイケマイヤーですと、彼は自分の名前を名乗ったわ。気取らない、素直な青年だった。踊りがうまい人なら、話も出来なかったでしょう。でも彼は本当に踊りがへただった。気がいたら椅子に座って、一時間以上もしゃべっていたわ。

クララ リーザ！

クララ、突然二人に向けてカメラのシャッターを押す。【SE】シャッター音とフラッシュの光。驚く二人。

リーザ あっ。

クララ キヤハハ！ おあつーい！ ヒュー！

インゲ 何よ、リーザ！ 引き立て役って言ったのにイ！

クララ すみにおけないわ。私にも紹介して！

おばあさん その時の写真がこれ。主人との出会いの日よ。カールは、ミュンヘン大学(※白バラ運動で有名)を卒業して、将来を嘱望されていた親衛隊のエリートだった。

イーダ すぐ恋人になったの？

おばあさん 翌日、手紙が届いてね。

中割パネルが両方閉まり、音楽終了する。【SE】クルマの音など街の雑踏音。リーザ、ハンドバッグを手にカールと舞台前に登場。

カール

今日、大学で面白い事件があつてね。騒ぎを鎮圧するために出かけて来たよ。

リーザ

何があつたの？

カール

党の指導官が、女子学生に向かつて、「大学をうろつくよりもヒトラー総統に子供を一人プレゼントしたまえ」と演説したんだ。そこまではまだよかったが、「美しさが足りなくて相手が見つからない女子学生には、自分の部下を世話しよう」とやったところ、学生から猛烈な抗議を受けて、大学中大騒ぎになったんだ。

当然よ。女性に対する侮辱だわ。

リーザ

カール

その指導官は女子学生たちにひつかかれて、顔中血だらけさ。（笑う）まあ、とんだ災難だった。

下手の暗がりには、ルイーゼがいるのをリーザが発見する。

リーザ

はっ！・・・ルイーゼ！

カール

誰？

リーザ

先に行つてて。

カール、上手に退場。リーザはルイーゼの近くへ。

リーザ

ルイーゼ。（抱きつこうとする）

ルイーゼ

寄らないで。見つかったらまずいわ。知らない顔して。こつちを見ないで話して。

リーザ

どこにいるの、ルイーゼ。

ルイーゼ

今は言えないの。でも大丈夫。生きてるから。

リーザ

（切実な声）あなたと会いたいわ。

ルイーゼ

昔行つた森で。二人しか知らない、泉の森で。

リーザ

次の日曜日に。午後三時には必ず行くから。

ルイーゼ

分かった。

リーザ

ルイーゼ。（バッグを開け）お金が必要でしょう。とっておいて。

ルイーゼ

いいのよ。

リーザ

（お札を取り出しルイーゼに持たせる）お父様に食事を。

ルイーゼはお札を受け取る時にリーザの手を強く握る。リーザは溢れる涙を抑えきれない。ルイーゼ退場。見送るリーザ。涙をさくられないように拭き、カールのもとへ。退場。中割パネルが両方開く。森。美しい照明。音楽「再会」スタート。ルイーゼがたずんでいる。上手からリーザが走つて来てルイーゼに抱きつく。しばらく抱き合つたまま時間が流れる。ようやく離れて。

リーザ

どうしよう。涙が止まらないわ。

ルイーゼ
リーザ
ルイーゼ

リーザ。今日はあなたに喜んでほしいことがあるの。私、結婚したの。
結婚！
ええ。彼に会ってちょうだい。

ルイーゼ、手を挙げて彼を呼ぶ。下手からモーリス登場。

ルイーゼ

主人のモーリスよ。親友のリーザ。

モーリス

はじめまして。実は、お兄さんの友達だったことがあります。

リーザ

ええ。覚えていますわ。

ルイーゼ

今、彼の家の二階に隠れ住んでいるの。ヒルデおばあさんのソーセージ屋の向かい。知ってるでしょう？

リーザ

(うなづき) お父様も一緒に？

ルイーゼ

ええ。大丈夫。

モーリス

実は、軍事用の双眼鏡や銃を作る仕事をしているんです。お金は、殆どナチスの将校に賄賂として渡しているんで、狙われる心配はありません。よかった！

リーザ

ルイーゼ

リーザ。私、子供が生まれるの。

リーザ

本当！ いつ？

ルイーゼ

来年の冬に。

リーザ

おめでとう！(ルイーゼと抱き合って涙)こんなに世の中が平和になることを望んだことはないわ。本当に平和になってほしい！ ルイーゼ、私に頼みたいことはない？

ルイーゼ

(微笑み、一度モーリスを見てからリーザに) ないわ。

リーザ、森の中を見渡して、舞台前に進む。

リーザ

信じられない。森の中はこんなに平和なのに・・・(今のひどい現実とは夢じゃないのかしら・・・)

中割パネルが両方閉まり、照明、音楽が変わる。音楽は「再会」から「戦争への道」に。ルイーゼとモーリスは中割の奥に消え、ハンス、オットー、カールが中割前に登場。

ハンス

リーザ！ ついにドイツがオーストリアに進駐した！

オットー

チェコのズデーテン地方も併合された！

ハンス

ドイツの進撃が始まったんだ！

リーザ

戦争になるの？

オットー

そんなはずはない。

カール

総統はドイツの再軍備を進める計画のようだ。義務兵役制が復活するらしい。

リーザ

戦争になるのね。

オットー

リーザ

そんなことは絶対にありえないことだ！
いいえ。戦争になるんだわ。坂道を、転げ始めているもの。一度転げ始めたら、どんどんスピードがついて、誰にも止められなくなって、そして……！

【SE】爆発音。音楽終了。リーザ耳を押さえる。男性陣は退場。

リーザ

どこへ行き着くんだろう。私たちは、どこへ行き着くの？ 坂道を転げた先に、どんな未来が待っているんだろう。今は何も想像出来ないわ。私が望むことは、誰も傷つかないこと。私が知っている人たちが、みんな笑顔で、愛し合って、将来も暮らせること……。こんなこと誰にも言えないけど、私、「我が闘争」に書いてあることは、やっぱり理解出来なかった。私には、まるでドイツ全体が、舞踏会で踊りたくない踊りを踊らされているように思えるの。みんなと同じ歌ばかり歌って、同じ踊りを踊って。どんどん早くなるテンポに、ついて行こうと必死でもがいているみたいに思える。誰もそんなことしたくないのに……。私の妄想なのかしら。現実逃避しているから？……。この現実、どんな明日を運んでくるんだろう？ ドイツは勝ち続けて、ヨーロッパの全てを手にするの？ そうなったら、その世界に住む人は、みんな幸せなの？ もし負けたら、ドイツはこの世からなくなってしまうの？ この舞踏会の音楽が終わった時に……。その時に、何が残るの!!

パウラ登場。青ざめた表情で。

パウラ

リーザ。起きなさい。ハンスが、戦争に行くことになったの。

音楽ブリッジ「衝撃」。照明カットアウト。リーザとパウラ退場し、中割パネルが両方開く。おばあさんの家になって音楽終了。

おばあさん

イーダ

おばあさん

戦争なんてまっぴらよ……。私たちの時代だけでたくさん。お前たちに戦争をさせないことが、今の大人たちの役目よ。だけどあの時代は、そうなってしまった。
リーゼは、どうなったの？
会うことを禁止されていたけど、時々、森の中で隠れて会っていたの。家からこっそり食べ物を運んだりして。私の一番幸福な時間だった。持つべきものは友達ね。

友達のいないイーダは立ち上がって窓辺へ。エヴァとヘルガ登場。

エヴァ

ヘルガ

おばあちゃん。ちよつと味見をしてくれる？
アイントプフ（ドイツの深鍋スープ）の下ごしらえすんだから。出来る

おばあさん
イーダ
おばあさん

だけおばあちゃんの味に合わせたつもりなんだけど。
はい。行くわ。（立ち上がる。エヴァとヘルガ退場）
おばあちゃん。あの、野の花畑に白い柵で囲ってあるところは、何？
ああ。（微笑む）

静かな音楽「第一幕エンディング」スタート。

おばあさん

あとで話してあげるよ。おいで。本当のアイントプフのつくり方、教えるから。

おばあさんとイーダ、手をつないでキッチンに退場。イーダは、手に持っていたルイーゼの人形をおばあさんの椅子に置いて行く。その椅子の照明だけを残して、部屋が暗くなり、客電がつく。

第一幕終了

第二幕

おばあさんの家。音楽「第二幕オーバーチュアー」が始まり、ゆつくりと客電が落ちる。部屋の中が明るくなり、にぎやかな女性たちの声がオフから始まる。女性たちがしゃべりながら上手奥キッチンから登場。音楽終了する。

エヴァ

レンズ豆！ レンズ豆がないって。それがないとダメなの？

おばあさん

ダメよ。必ずはいっていたじゃないの。私のアイントプフにはレンズ豆を入れるのよ。

エヴァ

きつと何か足りないと思っていたけど、レンズ豆とは。

おばあさん

忘れたんでしょ。子供の頃あれだけ食べたのに。

ヘルガ

なくても十分おいしいけど。

おばあさん

ダメよ。絶対に必要よ。

エヴァ

仕方ないわ。ちよつとクルマで買い出しに行つてきますから。

おばあさん

この道を真つ直ぐ行つたところにレヴェエ（ドイツのスーパーマーケット）があるわ。そこに置いてある。

ヘルガ

（うなづいて）来た時に見たわ。

エヴァ

（ヘルガにクルマのキーを渡し）はい、運転はあなた。

おばあさん

ついでにセロリアックも買つてきて。

ヘルガ

何？

おばあさん

知らないの？ 根っこがセロリの香りに似ているの。

ヘルガ

（メモする）セロリアック……。

エヴァ

私知つてるから大丈夫。じゃ、ちよつと行つてきます……レンズ豆ねえ……。

エヴァとヘルガ、下手奥に退場。おばあさんとイーダが残る。

おばあさん

どこまで話したつけ？

イーダ

戦争が始まるとこまで。

おばあさん

そう……兄のハンスが入隊して、外国の戦場に行ってしまった。私がカールと結婚した年だったわ。ほら。（アルバムを開いて）これが結婚式の写真だけれど、兄は写つてない。母は心配のしすぎで夜も眠れないほどだった。兄を深く愛してたから。

パウラ登場。続けてリーザが、兄からの手紙を手に登場。

リーザ

ママ。お兄ちゃんから手紙！（リーザ宛て。封を切つて読んだ）

パウラ

なんだって？

リーザ

大丈夫。なんにも起こつてないって。ずっと駐屯地にいて、時々パトロ

ールするだけなんで退屈らしいわ。

（心底ほつとする）そうかい。

外国にいと、一段とドイツを誇らしく思うって書いてある。パパとママによろしくって。

毎日神様に祈ってるよ。あの子が前線にやられませんかように。どうか無事でいるようにって。もし、前線にでも送られたら・・・。

気弱な母。涙ぐみながら退場。入れ違いに父オットー登場。

オットー

リーザ。すまないが、この家にある本を運び出したいんだ。クルマを用意したんで、積む手伝いをしてくれないか。

リーザ

（理解する）・・・また本を焼くのね。

オットー

そうなんだ。党が追加で決めた有害図書のリストだ。たくさんあるんで、全部処分しなきゃならん。（リストをリーザに渡す）

リーザ

（リストを読んで）ハインリッヒ・マン、マルクス、ブレヒト、ケストナー、シュテファン・ツヴァイク、ハイネ・・・。

オットー

最後に、私の著書もある・・・。

リーザ

パパ・・・いいの？ 本はパパの命でしょ？

オットー

本を焼くことは、人間を焼くことと同じ。ハイネの言葉だ・・・。だが、つまり、前向きに考えるならば、我々は新しい時代に突入したということだ。そういうことなんだ。今は国家が、心を合わせて一つの方向に向かおうとしている時だ。一つの民族、一人の総統、一つの帝国。強い目標を持って進んでいる時に、心惑わすような違う思想の本を読むのは、排除すべきことだ。それはそれで、筋は通ってる。

リーザ

パパの本心とは違うわ。何よりも文学を愛していた。

オットー

かつては。今は変わったんだ。学生たちにも言ってる。本ばかり読んで、国家のために労働しないのは間違っていると。今、国家が若者に望んでいるのは、鋼鉄のような肉体と獵犬のように俊敏な行動力だ。それが国家に役立つ道だ。書を捨てて、総統のために働こう。（絶句。泣き出す）

リーザは泣き崩れる父を抱える。父は崩れるように椅子に座る。

オットー

・・・あいつらはオオカミだった。私は、悪魔の手を握ってしまったんだ。ドイツ全体が地獄になってしまった。人間はなんて無力だ。リーザ。私は自分と、その愛したものが壊れて行くことがこわい。心底恐ろしい。正義のため毒杯を飲んで自殺したソクラテスが、私の前に現れて言うんだ。お前は勇気のない人間だと。（苦しそうに目をつぶり胸を押さえる）駄目よ！ 自殺なんて考えたら駄目！ パパのような、本当の人間がいなくなってしまうたら、この国はどうなるの!? 私たちに来れることは、人間の心を持ち続けること。人間であろうと努力することだわ！

リーザ

オットーは力が抜けるように胸を押さえて床に倒れる。

リーザ

パパ！・・・ママ！　ママ！

母パウラ登場。

リーザ

パパが！

パウラ

どうしたの！

オットー

大丈夫。疲れただけだ。少し横になれば・・・。

音楽「父倒れる」スタート。母と娘は父をソファーに寝かせる。

おばあさん

私は母と二人で父を寝かせて、お医者様を呼んだけど、夜になって、父の具合はいつそう悪くなったの。

リーザ

汗をかいてる・・・パパ・・・パパ。クスリが悪かったのかしら？

リーザ、水をしばったタオルで父の汗をぬぐう。カール帰宅。

リーザ

（カールに抱きついて）カール！

カール

どうなの？

リーザ

さつきから良くないの。苦しそう。

パウラ

あなた！・・・あなた、どこが苦しいの。（涙声）あなた。

リーザ

（焦りの表情。突然思い出して）ルイーゼのお父様よ！

カール

誰？

リーザ

この街で一番のお医者様はルイーゼのお父様よ！　カール！　クルマを

運転してちょうだい！　ママ！　お医者様を連れてくるわ！　ルイーゼ

のお父様を連れてくる！　すぐに帰ってくるわ！

リーザはカールの腕をつかんで退場。おばあさんの椅子を残して照

明、暗くなり、舞台前のみ明るくなる。

おばあさん

私は夫を連れてルイーゼのもとに急いだ。せまい階段を上った二階の隠れ家に、電気もつけずに彼らは暮らしていたわ。

舞台前、下手よりリーザとカール。上手からモーリスとルイーゼが

蝋燭を手に登場する。

リーザ

ルイーゼ。モーリス。父が病気なの。お父様にすぐ来てほしいの。

アルベルト、蝋燭を手に登場。

ルイーゼ
リーザ

様子はどうかの？
胸が苦しそうで。たくさん汗をかいてる。

ルイーゼは父の顔を見る。

アルベルト

私の診療カバンを。

全員、動き出し、リーザの家に集まる。オットーの治療をするアルベルト。見守る家族たち。

おばあさん

ルイーゼのお父さんは名医だった。ええ。おそらくドイツーのお医者様よ。もう何年も仕事をしていなかったのに、腕は衰えていなかった。父の命を救ってくれたのよ。

アルベルト

（立ち上がり）これでおそらく大丈夫でしょう。これを飲ませて、様子を見てください。

パウラ

（アルベルトの手を握り）あなたには何度も救われました。あなたに、神のみめぐみ（み恵み）を。

パウラとオットーを残し全員舞台前へ。中割パネルが両方閉まる。
音楽終了。

リーザ
ルイーゼ
リーザ
アルベルト

本当に、なんと感謝を申し上げたらいいか。
いいの。人間として当たり前のことをしただけだわ。
（口を押さえて泣く）父が、あんな仕打ちをしたのに。
お父さんのせいではありません。

ルイーゼはリーザの手を握る。ルイーゼ、アルベルト、モーリスは上手に退場。リーザとカールが残る。

カール
リーザ
カール
リーザ

彼らは許可を得ているんだろうか？ 登録はすませてあるのか？
・・・カール？
もし登録をすませていないようなら、逮捕される可能性がある。
登録はしています（うそ）。医者としての営業は、もうずっとしていないのよ。（腕をつかみ）特別に考えてちょうだい。命の恩人なのよ。

二人、下手に退場。中割パネルが両方開く。リーザの家。テーブルと椅子。リーザがルイーゼの家に運ぶパンなどの食料を紙に包んでいると、カールが帰宅して妻を見る。

カール
リーザ

リーザ・・・どこかへ持っていくのか？
・・・いえ。倉庫にしまっておく分を分けていたの。（振り返って）早

かったのね。すぐ食事にします？

カール

ああ、そうしてくれ。今夜はまた出かけなければならない。大事件が起こったから。

リーザ

大事件？

カール

ユダヤ人の若造がバリでドイツ人の書記官を撃ったんだ。書記官は二発の銃弾を浴びて死んだ。このテロに対する報復が、今夜行われるんだ。

リーザ

（恐れて）何をするの？

カール

さあ・・・それは分からない。だが報復は全国規模で行われる。もう命令は下されたんだ。

リーザ

報復って・・・まさか暴力行為じゃないんでしょ？

カール

先に暴力行為をしたのは、ユダヤ人だ。言っとくが、我々親衛隊は手を下さない。作戦は実行する突撃隊にかかっている。

リーザ

血が流れるの？ 犠牲になるユダヤ人がどの？

カール

無論、多少の犠牲は出るだろう。いや、多少の犠牲が出た方がユダヤ人のためになるんだ。これ以上この国にいられないとはつきり気づかされることになる。誰もが分かっていたきつかけを与えてやるんだ。明日になれば、奴らは慌てふためいてみんなドイツから逃げ出すことになる。素晴らしいじゃないか！（椅子に座り、伸びをしてベルトを緩める）これでユダヤ人のいないドイツが生まれる！ ドイツは変わるぞー。

リーザ

それがそんなにいいことなの？ ユダヤ人がドイツから一人もいなくなれば、そんなにいいことがあるの？

カール

もちろんさ。君はあんまりユダヤ人の肩を持つような口は慎んだ方がいい。党は今、大規模な強制収容所をつくっているからね。

背を向けるリーザ。カール、立ち上がり、リーザの背後へ。

カール

政治的に反抗する人間は、たとえドイツ人といえど。

カールはリーザを抱く。抵抗するリーザ。

リーザ

いや。今は。やめて。

カール

男としてこんなに興奮する夜もない。まだ出発まで時間がある。それまでは・・・。

リーザ

あっ・・・。

強引にリーザを抱きしめるカール。照明、カットアウト。中割パネルが両方閉まる。ルイーゼの隠れ家に走るリーザ。ドアをノックする。【SE】ドアをノックする音。「ドン、ドン、ドン！」緊迫した音楽「水晶の夜」スタート。

リーザ

ルイーゼ！ 私よ、リーザ！

照明がつき、上手からルイーゼとモーリス登場。

リーザ

（荒い息）ルイーゼ。すぐ避難してちょうだい。今夜、ユダヤ人への攻撃が始まるの。

ルイーゼとモーリス、顔を見合わせる。

リーザ

主人から聞いたの。森へ逃げましょう。街にいたら、しらみつぶしにやられるわ。

ルイーゼ

父が、ユダヤ教のシナゴグに出かけているの。

【SE】「バーン！」という爆発音と女性の悲鳴。

リーザ

急いで！

ルイーゼ

モーリス！

三人とも上手に退場。中割パネルが両方開く。街。真っ赤な照明とスモーク。音楽、さらに悲劇的に盛り上がる。上手から三人が飛び出して、火災にたじろぐ。【SE】火災、爆発音。悲鳴と怒号。

リーザ

火事だわ！ 突撃隊が火をつけたのよ！

ルイーゼ

シナゴグの方だわ！

リーザ

待つて！ あなたたちは見つかったらやられてしまう！ 私が行つてくるから先に逃げて！ 森で落ち合いましょう！ モーリス、頼んだわ！

モーリスはルイーゼを抱き抱えるように下手奥に退場。リーザは上手前へ退場。照明、暗くなり、数人が舞台を逃げ惑い、走り抜ける。【SE】爆発音と悲鳴、怒号が続く。

時間経過。舞台は森に転換し、照明がつく。爆発音や悲鳴が遠くなる。森から、赤く染まる街を眺めるルイーゼとモーリス。遅れてリーザがやつてくる。音楽終了。

ルイーゼ

リーザ！

よろけるように辿り着いたリーザを二人が抱き抱える。

リーザ

お父様は、見つからなかった・・・私が行った時、シナゴグはもう燃えていて。

ルイーゼ

（モーリスにしがみついて泣く）

リーザ

そこにいたユダヤ人は皆逮捕されたって。ドイツ人に反抗する集会を開いたって理由で。逮捕されてたら、命は無事だわ。

モーリス

話が出来る将校に頼んでみよう。強制収容所に連れて行かれる前に賄賂を渡せば、連れ戻せる。

リーザは赤々と燃える街を眺める。遠くの爆発音と悲鳴が、少し大きく聞こえる。

リーザ

なんて、ひどいことを……。人間の心が崩壊した夜だわ。

モーリス

僕たちは、この国から逃げ出した方がいいんじゃないか？ 何もかも捨てて、逃げ出した方が。

どこへ？

ルイーゼ

エルサレムか、アメリカか。ここから遠く離れたどこかへ。

ルイーゼ

ええ。でも、それは父を助け出してからだわ。

モーリス

それが先決だ。お父さんがどこに捕まっているか、全力で調べてみよう。

リーザ

私も協力する。

ルイーゼ

父が帰ってきたら、どこへ行くか、みんなで考えましょう。安心して暮らせるところへ。

オットー

リーザ！

下手舞台前にオットーが登場。リーザは呼ばれて舞台前に。二人の背後で中割パネルが両方閉まる。家族が次々に登場。

音楽「開戦」スタート。

オットー

ドイツ軍がポーランドに侵攻した。ついに戦争が始まった！

カール

ドイツ軍は破竹の勢いで進みつつある！ フランス、イギリス、そしてソ連へ！

パウラ

（喜び）ハンスが、ハンスが帰ってくるって！ 手紙が届いたわ！

リーザ

無事なのね！（母から兄の手紙を受け取る）

パウラ

ええ！ 久々に家族がそろうの！ お祝いしましょう！ みんなで！

家族たち退場。リーザはハンスの手紙を読む。

リーザ

（手紙を読む）僕たちは、最も正しいことをしているという誇りが、胸を貫いています。ヨーロッパを理想の姿にするために、僕たちは命を懸けているのです。ドイツ人を苦しめ続けたユダヤ人がいないヨーロッパを建設すること。それは僕らに与えられた崇高な仕事なのだとか心にとめて突き進むのです。愛を込めて。ハンス。

音楽終了。中割パネルが両方開く。リーザの家。テーブルの上にお祝いの料理と飲み物。家族たちは帰ってきたハンスを囲んで笑顔。

パウラ

ハンス！（身体をさわり）よく無事に帰ってきたわ！ お疲れ様！

オットー

元氣そうじゃないか！ たくましくなったな！

ハンス

ずいぶん鍛えられましたよ。リーザ！

リーザ

ハンス！（抱き合う）

ハンス

遅ればせながら結婚おめでとう。（カールと握手）妹をよろしく。

カール

お会い出来て光榮です。

パウラ

さあさ！ まずは乾杯しましょう！

オットー

そうしよう。

パウラ

グラスを持つて。ハンスが帰ってきたお祝いに。お父さんはあまり飲ん

オットー

ではいけませんよ。

家族全員

分かつてる。乾杯！

乾杯！

全員、テーブルにつく。

オットー

ハンス。しばらくはいられるのか？

ハンス

いえ。ソ連に行くことが決まりました。

パウラ

（恐怖）ソ連！

ハンス

喜んでください。親衛隊の一員として、ソ連へ攻め込むんです。

カール

それは素晴らしい！ 英雄ですよ！

ハンス

これまでは退屈な任務だったけど、今度は違います。すでに総統が明らかにしているように、ソ連の支配階級はユダヤ人です。ユダヤ人による

カール

共産主義勢力を叩き、広いソ連の領土を獲得することは、我が国の念願

ハンス

を叶える重大作戦だ。胸がわくわくしますよ。

カール

おめでとう。身内として誇りに思います。ところで、おめでたいついで

カール

に、私たちからおめでたいニュースを。

パウラ

何？

カール

リーザ。

リーザ

実は、子供が産まれるの。

パウラ

（喜びと驚き）リーザ！

オットー

アッハッハ！ こいつは素晴らしい！

ハンス

おめでとう、リーザ！

パウラ

（リーザに抱きつき涙）ありがとう。こんなに嬉しいことはないわ。お

カール

ばあちゃんになるのね！

ナチスの

党員で結婚して子供がないことに、ひけめを感じていたん

です。党は産めよ、増やせよの大合唱ですからね。私たちみたいな典型的ゲルマン系の夫婦で子供がいなのは、肩身が狭いんですよ。でも、これで晴れて自慢できる。

ハンス
カール

ドイツが目指す完璧な家族になったわけだ。ところで、ユダヤ人掃討作戦は、どの程度進んでいますか？

例の「水晶の夜」以来、断固とした措置が講じられています。もともとあれはユダヤ人が起こしたテロが発端ですからね。ユダヤ人への損害賠償、経済活動の禁止と追放を全ヨーロッパ的レベルで進めています。奴らはすぐにヨーロッパからいられなくなりますよ。

じゃあ、どこへ行くの？

党によると、マダガスカル島が検討されているらしい。

マダガスカル？

アフリカの東に浮かんでいる未開の島です。

ユダヤ人にはぴったりだ。(笑う)

それが実現するまでは、強制収容所に入れておくことになるでしょう。そうなの・・・収容所よりは、島に行った方がいいんじゃないかしら？それまで生きていればです。

リーザ
カール
パウラ
カール
ハンス
カール
パウラ
カール

照明、溶暗。音楽ブリッジ「暗い夜」。家族は食器を持つて退場。

時間経過。暗い照明の中、舞台下手の机の引き出しを調べるリーザ。

ユダヤ人のリストらしき書類を発見する。照明が明るくなり、カール登場。音楽ブリッジ終了。

私の引き出しから何を取ったんだ？

(リストを持ち) これは、逮捕者のリストでしょ。

ユダヤ人のリストだ。君には関係のないものだ。(奪い取る)

お願い。リーゼのお父さんがどこにいるのか知りたいの。

(アクション) まだユダヤ人の片棒をかついでいるのか！

あなたに迷惑はかけないわ！

・・・本当に愚かだ。(恐ろしい形相で近寄る) 党がそのことを知ったら、どうなるか分かってないんだな。

親友を助けたいの！ それだけなのよ！ 党の方針とか、ドイツがどうしたいとか、私にはどうでもいい！ ただ世話になった親友の家族を助けたいのよ！

カール
リーザ
カール
リーザ
カール
リーザ

カールは突然リーザを平手打ち。【SE】平手打ちの音。

あつ。

リーザ

リーザは床に倒れる。

カール

・・・あきらめるんだ。行方不明のユダヤ人は、すでに死んだか、東方へ送られたかの二つに一つだ。

生きて東方に送られたら、どうなるの？

リーザ

カール

リーザ

カール

道路建設などの強制労働に従事させられる。身体の弱い者から死んで行く。どうせ生きられないんだ。

ひどすぎるわ。なんの悪いこともしてないのに。

ユダヤ人であることが悪（あく）なんだ！ 今、悪をこの地上から抹殺するために、こんな苦勞をしているんだ！ もし奴らが悪でないとすれば、これほどひどいことはないだろう！ それは私だつてそう思う！

奴らが悪であると信じるからこそ、奴らを排除し、絶滅させることが善であると信じられるんだ！

リーザ

カール

リーザ

カール

あなたたちは強いわ。どこより強い軍隊なんでしょう。千年続く帝国ですもんね。ハイル・ヒットラー！ すべての人を力でねじ伏せて、殺してしまえばいい！ そうすれば幸せがくるんでしょうから！
そう！ しかしそれは一人一人の幸せではない！！ 国家全体の幸せだ！！
私は、家族や友達のことしか考えられない。馬鹿な女だわ。
（静かに）女というものは、そういうものだ。国や歴史を動かすのは男の仕事だ。女が口を出すべきものじゃない。・・・今日、親衛隊の将校が逮捕された。ユダヤ人の職人から賄賂をもらっていた罪だ。

モーリスのことだと分かりショックを受けるリーザ。

カール

その職人も逮捕されて殺されるだろう。ユダヤ人とうまくやろうなどと思わないことだ。

カール退場。音楽ブリッジ「涙」。リーザは床に突っ伏して泣く。

時間経過。リーザはゆっくりと起き上がり、なんとか椅子に座る。

音楽終了。すっかりやつれた父オットーが寝間着姿で登場する。

オットー

リーザ

オットー

リーザ

オットー

リーザ

オットー

リーザ

オットー

・・・リーザ。
パパ。・・・どうしたの、こんな夜中に。
亭主は？
飲みに行ったんでしょう。
リーザ・・・。（近くへ寄り、椅子に座る）
何？
・・・ルイーゼの父さんを、かくまってるんだ。

（驚き、目を見開く）パパ！

裏の納屋の屋根裏に。あの夜、突撃隊に追われて、うちにやってきたんだ。母さんと相談して、うちの納屋にかくれてもらった。奴らに絶対見つからないように。私が出来る、せめてもの恩返しだ。

（父を抱きしめる）元気なのね？ ルイーゼのお父さんは。

元気だとも。母さんが食事を運んでくれとる。

ルイーゼがどんなに喜ぶか。

ナチスの党员としては失格だ。だが、それでいい・・・。

リーザ

ルイーゼに知らせてくるわ。

リーザ退場。中割パネルが両方閉まる。ルイーゼの隠れ家。リーザ、下手より登場。ルイーゼとモーリスは上手から。

リーザ

ルイーゼ。お父様は無事よ。私の父が、かくまっていたの！

ルイーゼ

神様！（リーザと抱き合って泣く）

リーザ

モーリス。賄賂をもらっていたナチの将校が捕まったって。すぐにあなたのことを白状するでしょう。ここが知られる前に。

モーリス

（うなづく）行くべき時が来たようだ。

ルイーゼ

ええ。新天地へ。（モーリスを強くつかむ）

リーザ

荷物をまとめて見つからないようにうちの納屋まで来てちょうだい。お父様に会わせるわ。

イーダ

ルイーゼは、無事に逃げられたの？

おばあさん

ええ。お父さんと夫と一緒に、手荷物だけを持って、街を抜け出したの。私は街はずれまで、ルイーゼを見送りに行った。それが最後の別れになるかも知れないと、思っていたの。

舞台前に荷物（右手に鞆、左手に毛布など）を手にしたルイーゼ、アルベルト、モーリスと、何も持たないリーザ。

リーザ

ここでお別れね。どうかお元気で。

アルベルト

この街のために一生をかけて働いてきて、何も残らず追われるとは、人生は無情だ。

リーザ

いつか、変わるでしょう。希望を持って。

アルベルト

そうしよう。希望だ。

ルイーゼ

リーザ。もし二度と会えなかったとしても、絶対忘れないわ。

リーザ

（抱き合って）私もよ。決して忘れない。

ルイーゼ

私、あなたがいるから、どうしてもドイツ人を憎めないの。

リーザ

（泣く）ごめんね。

モーリス

明日の朝には、国境を越えてポーランドにはいるでしょう。ヨーロッパで一番ユダヤ人の多い国です。そこでチャンスを見つけて、次の行き先を決めるつもりです。では、さようなら。

リーザ

さよなら。さよなら。ルイーゼ！ さようなら！

ルイーゼたち家族は上手に退場。リーザは見送り、下手に退場。

音楽終了。

おばあさん

悲しかったわ。別れたあとも、毎日ルイーゼのことを思い続けた。自分がどんなに苦しくても、ルイーゼはもつと苦しいのだと自分を励ましていたわ。戦争は、日増しに激しくなつて行つたけど、ドイツ軍の思う通りには行かなかった。各地で激しい抵抗にあつて、多くの犠牲者が始めていた。ソ連に出征していたハンスが帰つて来たの！ ソ連軍に負けて、命からがら帰国して来た！ ハンスはすっかり別人になつていたわ。本物の戦場を経験して、心がこわれてしまったのよ。

ハンスが登場する。毛布をかぶり、顔がゆがみ、身体中が震えている。母親が寄り添う。驚き心配して見つめるリーザと父。

パウラ

もう心配ないよ、ハンス・・・おうちに着いたんだ。もう戦場じゃないんだよ。

ハンス

寒い・・・寒い・・・寒いよ。

パウラ

さすつてあげよう。寒かつたんだね。

ハンス

おばあさん

みんな、凍りついて、銃も撃てなくなつた・・・銃も撃てないんだ、寒すぎて。それなのに、ソ連軍は撃ってくる。あいつらは大丈夫なんだ。ソ連は零下40度の寒さで、ドイツ軍は寒さに耐えられなかった。

ハンス

ヒトラーは、ナポレオンと同じ、ロシアの寒さにやられたんだ。一人、また一人と、雪の中に倒れて行く・・・おい、待ってくれ。俺を置いて行かないでくれ・・・けもののように叫んでも、誰も助けてくれない・・・みんな、行つてしまつたんだ・・・ウウウ、アアアア！

震えが大きくなり、けもののような叫び声を上げるハンス。時間経過。少し照明が暗くなる。

おばあさん

やがて、少し落ち着いてくると、今度はすさまじい恐怖が彼を襲つてきた。武装親衛隊としてソ連に派遣された兄には、恐ろしい仕事があつたのよ。一度だけ、話してくれたわ。

ハンス

僕たちの任務は、ソ連のユダヤ人の虐殺だった。一つの村につくと、ユダヤ人を一か所に集めて、死体用の穴を掘り、全員、射殺するんだ。年寄りも、女も、子供も・・・何千人も、何万人も殺した。(※50万人殺されたと言われている)(ハンス、身体が硬直する)彼らが見ている！・・・許してくれ・・・俺は命令されただけなんだ！ 党に命令されてやつただけなんだ！・・・殺さないで！ ウウアアアアア！

ハンスは父と母に抱きかかえられて退場。

おばあさん

かわいそうに。結局兄は病院に收容されて、そのまま戻らなかった。病

院で自殺したのよ。父と母は、もう見ていられないほど落胆していたわ。

父と母とリーザ。

オットー

あの子が拾ってきた子犬が死んだ時、一晩中泣いて子犬をさすっていたっけ……。 (泣く)

パウラ

(泣いて) 優しい子だったんですよ。本当にいい子だった……。

カールが登場してリーザに告げる。

カール

リーザ。検査結果が出た。おなかの子は、墮ろした方がよさそうだ。

リーザは、ゆつくりとカールを見つめる。父と母も見ている。

カール

というより、党の命令なんだ。従わなくてはならん。

リーザ

なぜ！

カール

君は生まれつき小児麻痺で足が不自由だ。つまり、身体障害者だ。子供に遺伝して障害者が産まれたら、ナチスの党员として優生学的に恥となる。これが診断書だ。

震える手でカールから診断書を受け取り、読むリーザ。

おばあさん

冷たい病院のベッドの上で、私は、ただずっと泣いていたことしか覚えていない。おなかの子供と一緒に、私も死んだようだった。

放心状態のリーザ。カールは診断書をリーザの手から取り、リーザに軽蔑の表情を見せて退場。父と母は抱き合いながら退場。おばあさんは、ゆつくりとリーザに近寄る。リーザに触れそうになるが、触れることはない。

おばあさん

私の人生の、一番絶望的な時だった。話す相手もなく、一人でじっと考えていたわ。涙も涸れ果てて、現実には、まったく意味を失ったようだった……。父と母は、すっかり老け込んでしまった。とくに父は、椅子を窓辺に置いて、一日中座ったままになってしまった。希望を失った人の姿が、そこにあるようだった……。夫のカールは、あまり家にも帰って来なくなったわ。

カール、娼婦のような「赤いドレスの女」を連れて帰宅。酔っ払っている。

カール

おーっと。なんだ、嫁さんがいた。出かけたと思ったのに。行こう。こ

こはまずい。(笑う)

カールと女、ケタケタと笑いながら消える。

おばあさん

もう何もかもなくなったと思った時、私の頭の中に、ルイーゼが浮かんだ。そうだ。ルイーゼ！ ルイーゼは、どこにいるんだろう？ 元気で生きているかしら？ それとも苦しんでいるかしら？ 私に残った興味は、それだけだった。ルイーゼに会わなければ！ それが私の生きる意味だった。

リーザは思いついたような表情で下手の机に行き、引き出しを開けて書類をさがし、地図を出して机の上に広げる。

おばあさん

夫に聞いたことがあった。ポーランドには、ユダヤ人を収容する大きなゲットーがつくられているって。そこに、ルイーゼがいるかもしれない。

急いで旅支度をするリーザ。

おばあさん

私は行く決心をしたの。ナチスが管理するゲットーにはいるため、父に頼んで通行証を発行してもらい、父の党員バッジをポケットにしのばせた。旅行鞆一つに全てを詰め込んで、家をあとにしたの。夫には見つからなかった。もう二度と家には帰って来られないだろうと、覚悟していたわ。

【SE】雑踏の音が聞こえてくる。歩き始めるリーザ。

おばあさん

国境へ続く道には、大勢の人が歩いていていた。

音楽「ポーランドへの道」スタート。

おばあさん

長い長い人の群れの中を、どこまでも歩いて行くうちに、疲れていたのね。一歩も歩けなくなったの。道端に横になって、眠ってしまった。私を起こしたのは、旅をする年輩の女性だった。彼女は私を馬車に乗せ、毛布と食べ物くれたの。

年輩の女性タマラ（シユタイナー先生と二役）が登場して、馬車（椅子二つを利用してつくる）にリーザを乗せ、隣に座って手綱を握る。
【SE】ゆっくり馬車を走らせる音が続く。

タマラ

夜になると、ぐーっと冷えるからね。道で寝込んでいると、死んでしまうよ。もつとも、道で死んでる人は珍しくないけど。どこへ行くの？

リーザ

タマラ

リーザ

タマラ

リーザ

タマラ

リーザ

タマラ

リーザ

タマラ

リーザ

ポーランド。

じきポーランドよ。

友達を探しているの。ルイーゼ・キンスキー・ボラック。

名前を聞いてもねえ……。どこにいるのか知っているの？

いいえ……。ユダヤ人なの。

はあ……。じゃあ、ゲットーか、強制収容所だね。元気な人だったらゲ

ットーだ。弱っていたら収容所か墓場。

それ以外にいる可能性はない？

ないことはない。……。隠れていたり……。脱出したり。あるいは私の

ように、タタール人に化けていたり……。

(タマラの顔を見て)……。ユダヤ人なのね？

……。イスラム教徒、つてことにしているよ。完璧に教義を覚えたから。

私のような者もいるんだ。

無事に生きていてほしい……。どんなことをしても……。

音楽終了。馬車の【SE】は続く。

タマラ

ユダヤ人の友達をさがすドイツ人ね……。そう言やきのうもおかしな人に会ったよ。その人はドイツ人の少佐だったんだけどさ、虐殺されたユダヤ人の墓を一人でつくってるんだ。一生懸命にね。墓をつくるぐらいなら殺さなければいいのにつて思うがね。私の父ちゃんはユダヤ人だったけど、前の戦争で軍医として活躍してね。大勢のドイツ人を助けて勲章をもらった。誕生日には市長からお祝いの花が届くほどだったけど、ある日ドイツ人に殺された。殺した奴は父ちゃんが治した患者さんだったよ。治してやったばかりに……。兄は絶望してね。ユダヤ人だと生きて行けないと知つて、何になったと思う？……。ナチスになったのさ！ アーリア人みたいな顔してたからね、ハッハ！ バレずにやってるよ、ハッハ！ 生きるためにね……。世の中、本当に分からないもんだ。シモジモの者（もん）には、理屈じゃ分からん！ 今の世の中だつて、時が来ればゼーンぶひっくり返っちゃうのさ。

おばあさん

その女性のことは、不思議とよく覚えてるわ。私をウルシャワの街まで連れて行ってくれて、別れた。長い人生の中で、ほんの束の間、その時だけの出会いだつた。

タマラ

お元気で。探してる人が見つかるよう祈っとくよ。ユダヤか、イスラムか、キリスト教の神に……。どれもおんなじだろうね。ハッハ！

ありがとう。（握手）リーザよ。

おばあさん

タマラ、なんとかと言ったけど、下の名前は覚えていない。私を案内して、行ってしまったの。私は、彼女が言った神様のことを考えていた。

私たちの上に、そんな存在がいることを、しばらく考えたことがなかったの。

タマラ退場。

おばあさん

馬車から降りて、街を見渡したわ。雲も厚く、暗い、死の匂いが充満している街のように感じられた。通行証を頼りにゲットーをさがし歩いたけど、どこへ行ってもルイーゼは見つからなかった。ワルシャワの北東にあるトレブリンカというところに、最近収容所が出来て、大勢のユダヤ人を送り始めているという話を聞いた。そこへ送られたら、生きては帰れないという噂も。朝から夜まで必死になつてさがすうちに、やがて街のポーランド人たちから、めがねやハサミを器用に直す男がいて、助かっているという話を聞いたの。

ポーランド人の男が登場。リーザと立ち話。

おばあさん

私は、もしかしたらその人は、ルイーゼの夫モーリスではないかと思つた。腕のいい職人だったから。住所を聞くと、知ってるから連れてつてやると言われたの。

中割パネルが両方閉まり、男とリーザが舞台前に残る。

リーザ

その人は、なんて名前なの？

ポーランド人の男

名前は知らないな。みんなあだ名で呼んでっから。「便利屋」つて。なんでも頼めばやってくれっから。

リーザ

その人には、奥さんとお父さんはいる？

ポーランド人の男

いやー、お父さんてなあ、見たことないなあ。奥さんはいるよ。それから、子供が二人。

リーザ

子供……。その人は、ユダヤ人ではないの？

ポーランド人の男

いや、違う。(足が止まる。リーザを凝視して) あんた、もしかしたら、ゲシュタポと関係あるんじゃないか？ 隠れてるユダヤ人をさがしているんじゃない？

リーザ

(強く) ゲシュタポとは関係ないわ。(男の手をつかみ懇願) お願いよ。

親友をさがしてるの。

ポーランド人の男

(しばらくリーザの目を見て、上手をアゴで指し) この家の四階だ。

リーザとポーランド人の男、いったん上手前に退場。中割パネルが

上手側だけ開く。モーリスが後ろ向きで金属をウエスで拭いている。

ポーランド人の男とリーザが上手奥に登場し、声をかける。

ポーランド人の男

便利屋！

モーリス、振り返る。

リーザ
モーリス
リーザ

(心の中でモーリスと叫ぶ)……………!
(驚いて)……リーザ!
元気だったのね!

リーザ、モーリスに抱きつく。ポーランド人の男はそれを見て退場。
リーザは男が気になり振り返る。

モーリス
リーザ
モーリス

あの男は大丈夫。地下活動家の一人だ。
リーゼは？ リーゼは元気なの？
……奥の部屋にいる。喜ぶだろう。会ってやつてくれ。

下手側の中割パネルが開く。リーゼが寝かされている。背後に汚れ朽ちた部屋の壁パネル。リーゼの近くに二人の幼い女の子(子役)がいる。リーゼに近寄るリーザ。

リーザ
リーゼ

(重い病気であることが分かる) リーゼ!
(弱々しく) リーザ……。

リーザはリーゼの細くなった手を握る。

リーゼ

こんな、遠いところまで……。祈りが、通じたのね。死ぬまでに、もう一度……会いたいって。

リーゼ。(モーリスの顔を見る)

出血が、止まらなくて。ろくに食べるものも、ないから。

お父様は？

……。

モーリス
リーゼ

捕まってしまいました。私と二人、外に出ていた時に一斉検挙があつて、私を逃がすために、おとりになってくれて……。私は下水道に逃れて、なんとか帰ってくる事が出来た。

リーゼ

今は……。悲しくないわ。すぐに、会う事が出来るでしょう……。リーザ……。ずっと、あなたの事、考えていたの。

私もよ。

リーザ
リーゼ

二人で、葡萄畑で、葡萄を食べたわね。おなかいっぱい。
ええ。シュタイナー先生を、トイレに落つことした。(笑う)

リーゼ

(笑う) 楽しかったわ……。リーザ。私の子よ。

リーゼは人形を抱えた娘をうながす。娘はリーザのそばへ行き、持っていた人形をリーザに渡す。

リーザ

可愛い。(リーゼに) あなたがつくったのね？

ルイーゼ ……。(微笑んでうなづく)

リーザ なんとか、お医者様をさがすわ。街中走り回って。

ルイーゼ (首を振り) もうモーリスがやってくれたわ。いいの。長くは生きられないって、子供の頃から知っていたのよ。……リーザ。

リーザ (涙が溢れる) なに? ルイーゼ?

ルイーゼ ……あなたに頼みたいことがあるの。頼み事をするのは、きらいだけど、一生に一度だけ、親友のあなたに、頼みたいことがある。なあに?

リーザ 私が死んだら、私の子供を、育ててちょうだい。二人の娘を。分かったわ。私に命があるうちは、決して手放さないわ。

ルイーゼ ありがとう。(リーザの頬を触り) ありがとう。……結局、ナチスに捕まらないで死ぬことが出来た。私は勝ったのよ。リーザ。また、二人で森へ行きましょう。あの懐かしい森……。

リーザ 行きましょう。ルイーゼ。どんなにそのことを願っていたか。戦争が終わったら、必ず行きましょう。

ルイーゼ (力なくうなづく) ああ。目の前に、野の花畑が見える……。

音楽「ルイーゼの旅立ち」スタート

ルイーゼ ほら。きれい。たくさん咲いてるわ……。 (動かなくなる)

リーザ ルイーゼ……? ルイーゼ……? ルイーゼ! 死なないでちょうだい。死なないで。二人で森に行きましょう。ルイーゼ! ……ルイーゼ!

モーリスが近づいて。

モーリス 安らかに、行かせてあげよう。

リーザはモーリスに抱きついて泣く。モーリスは、ルイーゼの顔を正面に戻してやる。

モーリス 君に会って、安心したんだろう。見てごらん。なんて幸せそうな顔だ。彼女は今、天国に登っているんだ。

ルイーゼの顔を照らす照明が明るくなり、音楽が高鳴る。天国に登って行くルイーゼ。

照明、溶暗。中割パネルが両方閉まる。時間経過したが、ルイーゼが亡くなった四階の部屋という設定。リーザとモーリス、二人の子供が舞台前に。

モーリス

彼女の遺体は、自然に還しました。遺髪を切り取ったので、あなたに半分、渡します。持っていてください。・・・じゃあ、出来上がった製品を、客に届けて来ます。いくらかの力ネになるでしょう。パンが買えたら、いいのですが。

リーザ

気をつけてちょうだい、モーリス。ゲシュタポに捕まらないように。

モーリス、うなづいて下手に退場。音楽終了。リーザは二人の娘を呼ぶ。

リーザ

おいで。おばちゃんここで待ってよう。

二人の娘を両脇に抱えて座る。【SE】空襲警報が鳴る。飛行機の音。続けて爆音（最初はまだ遠い）が響く。

リーザ

大丈夫よ。離れないで。しっかりくっついて。歌を歌いましょう。

リーザ

子供を励ましながら、ドイツ民謡「別れ（ムシデン）」をアカペラで歌うリーザ。

ムシデン ムシデン
ツム・シュテツテレ・ヒナオス
シュテツテレ・ヒナオス
ウンドウ・マイン・シャツツ・ブライブスト・ヒーア

爆音はだんだん近く、大きくなる。建物が崩れる音。リーザはたまらず立ち上がり、カーテンを開けて窓を開ける動作。

リーザ

東の空が燃えてるわ。人々が逃げ出してる。・・・私たちも逃げましょう。お父さんとはどこかで会えるわ。

中割パネルが両方開く。舞台奥はおばあさんの家になっているが、照明はまだ暗く、おばあさんの椅子のみに明かりがつく。リーザは子供たちを立たせ、爆音が続くなか、子供を抱えて街に出る。

おばあさん

街は焦土作戦で、燃え上がっていたわ。あちこちから恐ろしい煙が立ちのぼっていた。私は二人の子供を抱えて、炎と反対方向へ走って逃げた。途中で、ゲシュタポに連行されるユダヤ人の行列と出会ったわ。

【SE】行進する軍靴の音「ザッザッザッザッ・・・」

おばあさん

その中には、モーリスの姿が！

リーザ
おばあさん

（手を振って必死に）モーリス！ モーリス！ モーリス！
モーリスは、私の声に気づいてくれた。悲しい目で私を見つめ、それから、子供たちを見つめた。何度も振り返りながら、連れ去られてしまったの。思わず立ちすくんでいると、二人のドイツ兵が私を取り囲んでいた！

【SE】軍歌の音フェイド・アウト。ナチスドイツの制服を着た兵士が二人、軍用小銃（ライフル）を突きつけてリーザを囲む。

ドイツ兵1

何をしているんだ!?

銃口を向けられて、ひるむリーザ。

おばあさん

私は咄嗟に、父に頼んだ通行証と党员バッジを見せて言ったの。

リーザ

（強く）党の視察で来ています。この子たちを施設に運びます！

ドイツ兵2

（通行証とバッジを見て）失礼しました。（通行証を返し）おい行くぞ！

二人のドイツ兵、退場。爆音のSEは続く。

おばあさん

父のおかげで命拾いしたわ。父が助けてくれたんだと今でも信じてる。それからは、どこをどう逃げたんだか、まったく覚えていない。無我夢中だった。瓦礫の中に身をひそめて、子供たちを抱えて震えていた。街の建物が破壊されて崩れて行くのを眺めていた。人間が長い時間をかけて築いた街並みが壊れて行く。この世の終わりだと思っていたわ……。何時間ぐらいたっただろう？ ふと目を上げると、目の前の瓦礫の中にあった小さな隙間から、野の花が顔を出していることに気づいたの。

音楽「野の花」スタート。

リーザ
おばあさん

あつ！ 野の花よ……。！（近づき）野の花が咲いている！
きつと、今咲いたばかりなんでしょう。ほんの小さな土の地面から顔を覗かせて、なんとも美しい花を咲かせていたわ。

音楽、【SE】爆音終了。

おばあさん

……。私の話はこれで終わり。この人形は、その時ルイーゼにもらったものよ。

イーダ

ルイーゼの、二人の子供はどうなったの？

リーザは立ち上がり、二人の子供を連れて下手に退場。同時に子供たちと一瞬重なるように下手奥からエヴァとヘルガが帰って来る。

部屋の照明が明るくなる。

エヴァ

おばあちゃん、レンズ豆、買って来ましたよ！

ヘルガ

セロリアックも！ ちゃんと忘れずに買って来たわ！

エヴァ

（袋を置いて）これでいいわね。もう、時間がかつちゃった。

ヘルガ

このへんもずいぶん変わったわね。家や店が増えた！

エヴァ

ねえ！ 便利になったでしょう！

ヘルガ

昔は野中の一軒家だったのに！ ファツファツファツ（笑う）。

エヴァとヘルガ、上手奥のキッチンに退場。

イーダ

もしかして、ママとヘルガ叔母さんなの！？

おばあさん

そうよ。あなたの母親のエヴァと妹のヘルガは、ルイーゼの娘。あなたはルイーゼの孫なのよ。私はあなたの母親とも血が繋がっていない。でも、自分の子供のように愛して育ててきたわ。あなたの身体の中には、ルイーゼの血が流れているの。（人形に触れる）

イーダ

初めて知った。

おばあさん

あなたが中学生になったら、話しておこうと思っていたの。あの野の花畑にあるのは、ルイーゼのお墓。彼女の髪を埋めてあるの。

エヴァ、キッチンから顔を出して。

エヴァ

イーダ！ 食器を出すの、手伝ってちょうだい。ご飯が出来ますよ。

イーダ

はい。・・・おばあちゃん。ご飯がすんだら、お墓に連れてって。

おばあさん

いいわ。

音楽「夕食の後で」スタート。イーダとおばあさんはキッチンに退場。ゆっくり中割パネルが両方閉まる。上手舞台前より、イーダとおばあさん登場。おばあさんは花を持つ。

イーダ

あー、おいしかった。寮のご飯と大違い。

おばあさん

私も、ちよつと食べすぎちゃった。楽しすぎて。ああ、風が気持ちいいわ・・・。

イーダ

おばあちゃん。戦争が終わったあとは、どうしたの？

おばあさん

私は二人の子供と実家へ戻ったわ。父は亡くなり、母は一人で生きていた。終戦の時、夫はダッハウ強制収容所で看守をしていたけれど、戦後、戻ってくることはなかった。街は焼け野原で、ひどい有様。でも、生きている人は希望を持っていた。私は子供たちに国語を教える教師になった。自由に本が読める素晴らしいさを、子供たちに教えたかったの。そして、エヴァとヘルガを育て上げたのよ。長い道のりだったけど、二人の娘と生きて行くのは楽しかった。ルイーゼのおかげね。

音楽「ルイーゼの墓」へ。音楽が高鳴る。舞台中央にルイーゼの墓石（高さ60cm）があり、周りを白い木の柵（高さ80cm）で囲っている。野の花畑と満天の星。イーダとおばあさんは墓の前に立つ。

おばあさん

あら・・・花があるわ。エヴァとヘルガが置いたのね。

ルイーゼの墓に花を手向けるおばあさん。

イーダ

ここは、なんとなく覚えてるわ。小さい時に来たことがあるみたい。

おばあさん

ええ・・・。ルイーゼ。イーダを連れてきたわ。大きくなったでしょう。

ルイーゼに祈る二人。

イーダ

きれいなね。野の花に囲まれた中にお墓があるのね。

おばあさん

ええ。私も死んだら、ここへ眠るわ。ルイーゼの隣に・・・。昔、イエス様は野の花を見ておっしゃったそうよ。名もなき野の花でさえ、神様はこんなに美しく生かしてくれる。だから、人間が愛されないはずはないって。

イーダ

私、もう足にアザがあることを恥ずかしいと思わないわ。・・・水着も、

大丈夫。

そう。

ええ。・・・会ったこともないのに、ルイーゼを感じる。

そばに来ているね。私たちを見ているわ。

・・・おばあちゃん？

なあに？

不思議よ・・・。時間が止まったみたい。そんな気がする・・・。時間が止まっているわ・・・今！

音楽、高鳴る。星がきらめき、二人はシルエットに。照明溶暗し、音楽も終了。

「野の花」幕